

点検・整備チェックリスト

(販売店にチェック・記入を依頼してください。
定期点検・整備の料金は、お買い上げの販売店までお問い合わせください。)

✓: 異常無し A: 調整、注油 △: 修理 ×: 交換 C: 掃除その他 —: 装着されていない部品

点検の箇所	点検項目	販売時	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目
			2か月	6か月	1年	1年半	2年	2年半	3年
フレーム・フロントフォーク	変形、折損、ヒビ割れは無い								
	ヘッド、ハンガー小物にがたつきや摩耗は無い								
ハンドル	固定は確実か、高さ、ハンドルの挿入量は適正か								
	変形、折損、軽く回転するか								
どろよけ	変形、取り付けは適正か								
キャリヤ	変形、がたつき、折損は無い								
車輪	固定は確実か、フレーム、フロントフォークに接触していない								
	タイヤ								
リム	切傷、摩耗は無い、空気圧は適正か								
スポーク	変形、振れ、摩耗(アルミリム)は無い								
ハブ	緩み、変形、切損、外れは無い								
クラック	ハブナットの緩み、玉押しのがたつきは無い								
	ギヤ板の振れ、ヒビ入り、曲がり、がたつきは無い、締め付けは十分か								
ペダル	固定は確実か、取り付け部(クランク側)にバリは無い								
	軸の回転は正常か、変形、カシメ、ねじの緩み、がたつき、折損は無い								
ブレーキ	利き具合は適正か								
	レバーの引き代に余裕はあるか、ワイヤ類にさびやほつれは無い								
	ブレーキゴム類(ブレーキブロック、パッド、ライニング)の減りは無い								
変速機	作動は確実か								
ベルト	ヒビ入り、歯欠け、折損は無い、張りは適正か								
チェーン	油切れ、たるみは無い、ギヤとの噛み合わせは適正か								
サドル	固定は確実か、高さ、シートポストの挿入量は適正か								
	取り付け位置、がたつき、損傷は無い								
ライト	点灯、照射は正常か、破損は無い、コード切れは無い								
リフレクター	汚れ、がたつき、破損は無い、点灯(テールランプ付)は正常か								
スタンド	作動は正常か、がたつき、変形、折損は無い								
ベル	作動は正常か、変形、緩みは無い、よく鳴るか								
錠	作動は正常か、変形、緩みは無い								
その他	各部のねじの緩み、損傷は無い								
注油箇所	チェーン、ワイヤ、変速機、ブレーキレバー、スタンドの支点、バッテリーロックキー穴、錠前キー穴								
実施店	実施者氏名	実施日	年	年	年	年	年	年	年
			/	/	/	/	/	/	/
保証書に印字されている品番および車体番号を転記してください	品番	車体番号	確認印	①	①	①	①	①	①

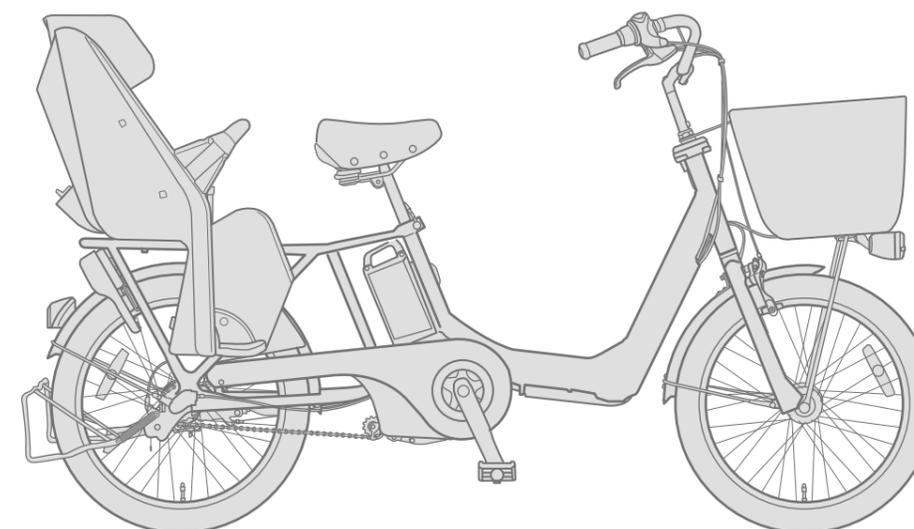
Panasonic®

取扱説明書 電動アシスト自転車

品番

ギョット・アニーズ・KD

BE-ELMK03



保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みの上、正しく安全にお使いください。
- ご使用まえに「安全上のご注意」(4～23ページ)を必ずお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

パナソニックの会員サイト「**CLUB Panasonic**」で「**ご愛用者登録**」をお願いします

特典

- お宅の家電商品、消耗品情報が一元管理できる!
- 登録商品に関するお知らせやサポート情報が入手できる!
- 登録すると抽選で商品券などが当たる!

詳しくはこちら
<http://club.panasonic.jp/aiyo/>



パナソニック サイクルテック株式会社

〒582-8501 大阪府柏原市片山町13番13号

はじめに

- この自転車は、一般乗車用として設計されています。新聞配達などの業務用としてご使用にならないでください。また、日本国内以外の交通法規には適合していませんので、日本国内以外でご使用にならないでください。
- 必ず、販売店で防犯登録を行ってください（法令で義務付けられています）。

- 製品をほかの人に譲渡される場合は、この取扱説明書を一緒にお渡しください。
- お子様がお使いになる場合は、保護者の方がこの取扱説明書を必ずお読みいただき、正しい乗りかたをご指導ください。
- 本書のイラストはイメージ図を使用していますので、一部実車と異なる場合があります。

乗せる・走る・降りすを、いつも安全、快適に♪

乗せやすく 降りしやすい

低床設計で、お子様を
持ち上げる際にかかる
負荷を軽減。

なめらかな 走行感

3つのセンサーで
アシスト力を調整し、
加速をなめらかに。

エコナビ[※]で アシスト持続

ムダな消費電力を抑えて、
アシスト走行距離を
伸ばします。

※エコナビランプ点灯時

バッテリーが 切れても安心

バッテリーが切れても
一般の自転車と同様、
快適に走行できます。

もくじ

ご使用のまえに

- 安全上のご注意…………… 4
- 使用上のお願い…………… 24
- 各部のなまえとはたらき …… 26
 - 付属品…………… 28

乗るまえに

- 乗るまえの点検と調整…………… 36
- 充電しましょう…………… 44
 - バッテリーの残量について…………… 47
- 荷物やお子様を乗せるとき …… 49

乗りかた

- さあ、乗りましょう! …… 55
- ブレーキのかけかた…………… 59
- 変速のしかた…………… 59
- アシストの強さを変える…………… 61
- 走行できる距離の目安…………… 63

乗り終わったら

- 駐輪・施錠のしかた…………… 65

必要なとき

- お手入れについて…………… 67
- 注油について…………… 68
- 運搬/保管/廃棄について …… 69
- 故障かな?…………… 70
- バッテリーについて…………… 74
- 仕様…………… 76
- オプション(別売部品)…………… 78
- 定期点検について…………… 79
- 自転車安全基準/ BAA マーク/
点検整備済 TS マークのご紹介 …… 80
- 盗難補償について…………… 81
- 保証とアフターサービス …… 83

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

- 危険** 「死亡や重傷を負うおそれ大きい内容」です。
- 警告** 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
- 注意** 「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています(次は図記号の例です)。

-  してはいけない内容です。
-  実行しなければならない内容です。
-  気を付けていただく内容です。

危険

バッテリーについて

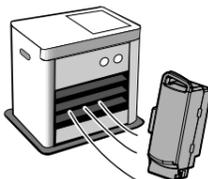
-  **■(+) と(-) を金属などで接触させない**
禁止

(発熱、発火、破裂の原因)
⇒ネックレス、ヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管しないでください。

■火への投入、加熱をしない

- 
(発熱、発火、破裂の原因)

■火のそばなど高温の場所で充電・使用・放置しない

- 
(発熱、発火、破裂の原因)

■落下させない

(発熱、発火、破裂の原因)

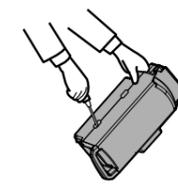
-  **■当社電動アシスト自転車専用の充電式バッテリーです。この機器以外に使用しない**
禁止

(発熱、発火、破裂の原因)

■専用の充電器以外は使用しない

(発熱、発火、破裂の原因)

■クギで刺したり、衝撃を与えたり、分解・改造をしない

- 
(発熱、発火、破裂の原因)

■再生・リサイクルバッテリーは使用しない

(発熱、発火、破裂の原因)

充電器について

-  **■当社電動アシスト自転車バッテリーの充電以外の使用は絶対しない**
禁止
(バッテリーの液漏れ、発熱、破裂によるけがの原因)

警告

バッテリーについて

-  **■水を入れたり、水中に投下したりしない**
禁止

(端子部から水が入ると発熱、発火、破裂の原因)
⇒バッテリー内部に明らかに水が浸入した場合は、使用を停止し、販売店で点検を受けてください。

- 傷ついたまま使用しない**
(ケースなど、破損したまま使用すると液漏れのおそれがあり、目に入った場合失明するおそれ。また、水の浸入により、発煙・発火のおそれ)

- 大雨などで自転車本体(バッテリー部)が水につかった場合、使用しない**
(不意にアシストが停止する場合があります、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)
⇒本自転車は生活防水性能を備えていますが、大雨などによりバッテリー内部に水が入った場合は使用を停止し、販売店で点検を受けてください。

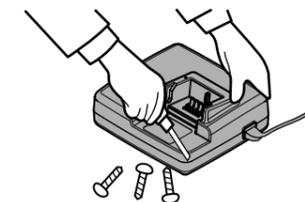
-  **■確実に自転車に装着されているか確認する**
必ず守る

- 
(走行中に脱落し転倒したり、足の上に落下したり、けがのおそれ)
⇒必ず手前に引いて外れないか確認してください。

充電器について

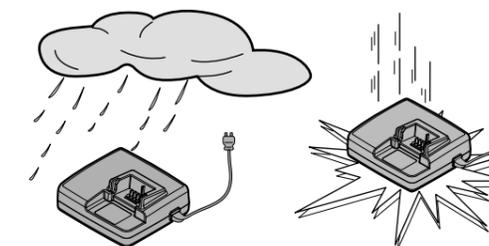
-  **■電源コードを充電器本体に巻きつけて保管しない**
禁止
(電源コードやプラグが断線し、傷んだまま使用すると、感電・故障・火災の原因)
- 充電中はカバーをしたり、上に物を置いたりしない**
(内部が発熱し、火災のおそれ)
- 充電中は引火のおそれがあるものを近づけない**
(スパークし、火災や爆発の原因)

■分解、改造は絶対しない



(充電時、バッテリーの液漏れ、発熱による火災のおそれ)

- 以下のようなことはしない**
●衝撃を与えること ●落下 ●水ぬれ
●高湿度な場所(浴室・洗面所や水がかかる場所)での使用



(発熱、発火、感電のおそれ)
⇒水にぬれた場合には、内部基板に水が浸入していることがありますので、使用しないでください。

安全上のご注意(つづき)



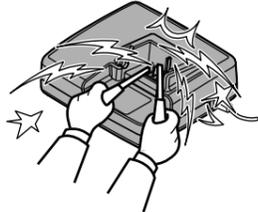
警告

充電器について



禁止

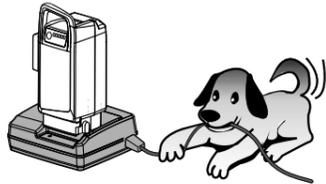
■充電端子を金属でショートさせたり、ボタン・コイン電池を接触させない



(発熱、発火、感電のおそれ)

⇒充電しないときは、端子カバー(オプション) (P.78 ページ) をかぶせておくことをお勧めします。

■幼児やペットが触れる所に放置しない



(幼児やペットがコードを傷め、感電・故障・火災の原因)

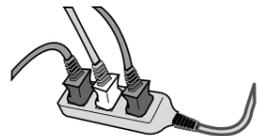
■電源コードや電源プラグ・ケースを破損するようなことはしない(傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものを載せる、束ねるなど)



(傷んだまま使用すると、感電・故障・火災の原因)

⇒電源コードなど単体での修理・交換はできません。電源コードなどが傷んだ場合、販売店にご相談ください。

■コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、家庭用の交流 100 V 以外での使用はしない



(たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因)



ぬれ手禁止

■ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない

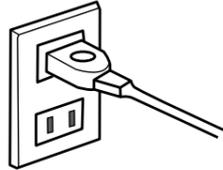


(感電のおそれ)



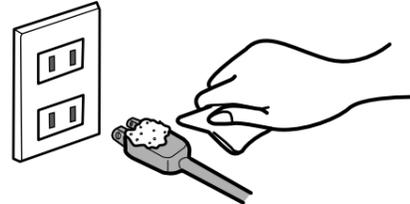
必ず守る

■電源プラグは根元まで確実に差し込む



(接触不良による感電や火災の原因)

■充電端子や電源プラグのほこりなどは定期的に取り



(ほこりがたまる、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因)

⇒電源プラグを抜き、乾いた布で拭いてください。

■充電中に次の異常を感じたら充電を中止する(異音・異臭・煙の発生など)

(火災や爆発の原因)

⇒充電器の電源プラグを抜き、バッテリーを取り外してください。



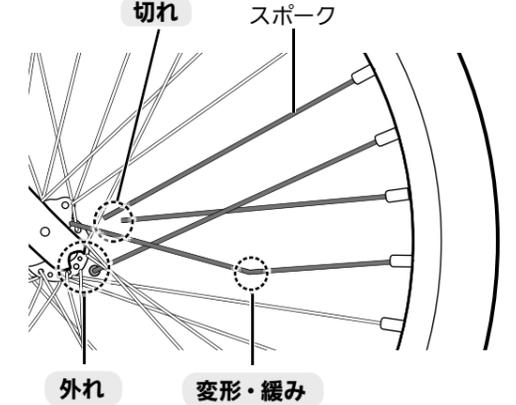
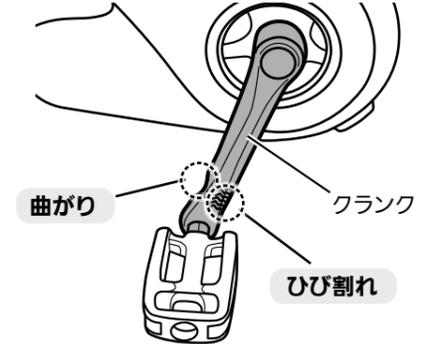
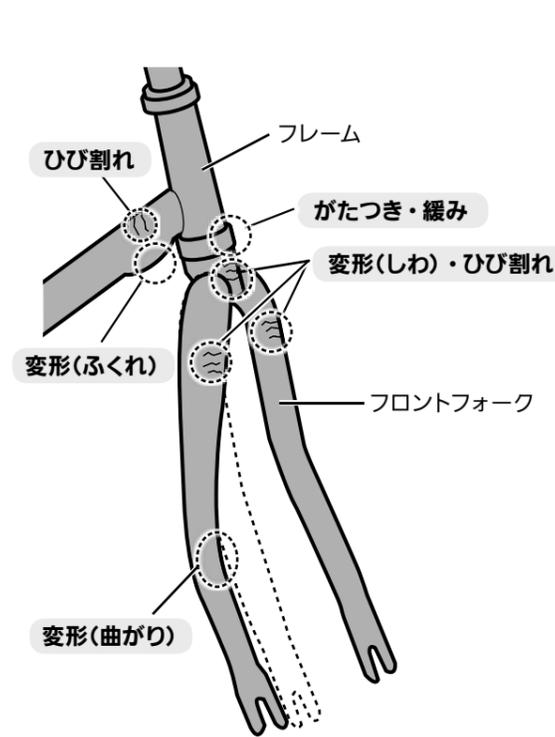
警告

自転車本体について



禁止

■各部にがたつきや緩みおよび、変形・ひび割れなどの異常があるときは乗らない



(折れや固定の緩みにより、転倒や衝突によるけがのおそれ)

ひび割れや変形などの異常を見つけたら、すぐに乗るのを止めて、販売店で点検、交換をしてください。

⇒フロントフォークは衝突などの強い力を受けたとき、変形することによって乗員や車体への衝撃を和らげるように設計してあります。衝突や転倒など強い衝撃が加わったあとは、フロントフォークに変形やひび割れなどの異常が無いか点検してください。

⇒スポークが1本でも切れたまま使用を続けると、ほかのスポークに負担がかかり寿命が短くなります。切れ・変形・緩みのあるスポークは直ちに交換してください。できれば、すべてのスポークを交換されることをお勧めします。

⇒ハンドルやサドルを締め付けてもがたつき・緩み・ずれがあるときは、すぐに乗るのを止め、販売店で点検をしてください。

■調整後の締め付け・固定を確認せずに乗らない

●車輪 ●サドル ●バッテリーライト ●ハンドル など

(転倒や部品やものが落下し、けがのおそれ)



必ず守る

■次の様ときは外観上異常が無くても販売店で点検を受ける

●車輪が変形するような衝突や段差の乗り上げ・落下をしたとき

●ペダルやクランクに強い衝撃が加わるような衝突や転倒をしたとき

(ブレーキの動作不良、フレーム・フロントフォークの折損、駆動ユニットの異常動作により転倒し、けがのおそれ)

安全上のご注意(つづき)

警告

自転車本体について



■改造や分解はしない

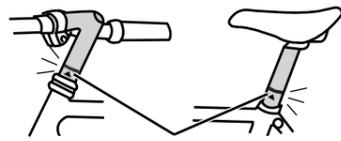


(部品の破損や、ブレーキが利かなくなって転倒や衝突によるけがのおそれ)

■回転部(車輪・チェーンなど)に手や足を近づけない

(車輪やチェーンに巻き込まれ、けがのおそれ)
⇒幼児や児童も近づけないようにご注意ください。

■サドルやハンドルは「はめ合わせ限界標識」が見える状態で乗らない



はめ合わせ限界標識

(シートポストやハンドルステムの折れにより、転倒や衝突によるけがのおそれ)
⇒ハンドルの高さ調整は、販売店にご相談ください。

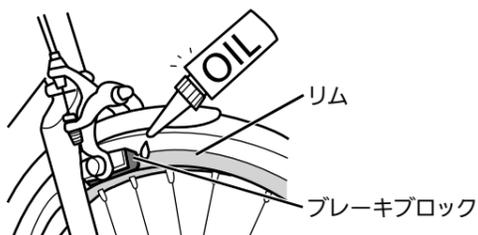
■ハブステップなどの突出物を装着しない



ハブステップ

(歩行者などに危害を及ぼすおそれ)

■注油禁止場所(リムやブレーキブロックのゴム部など)に注油しない



リム

ブレーキブロック

(ブレーキが利かなくなり、衝突や転倒によるけがのおそれ)

ブレーキについて



- 前後ブレーキの作動を確認せずに乗らない*
- ブレーキレバーの遊びが大きいままや、小さいままで走行しない*
- タイヤやブレーキから異音がある場合は使用しない*

※(ブレーキが利かなくなったり、利き過ぎたりすることがあり、転倒や衝突によるけがのおそれ)

⇒ブレーキが利かないときやブレーキレバーの遊びが不適切なときは、すぐに販売店で点検を受けてください。

■ローラーブレーキグリスの補給には、ローラーブレーキ専用グリス以外は使用しない



専用グリス

(制動力が低下し、転倒や衝突によるけがのおそれ)

⇒販売店でローラーブレーキ専用グリス(当社品番: NBP002)を補給してください。

■雨天時や下り坂ではスピードを出さない

(制動距離が長くなったり、スリップしやすくなったりするため、衝突や転倒によるけがのおそれ)

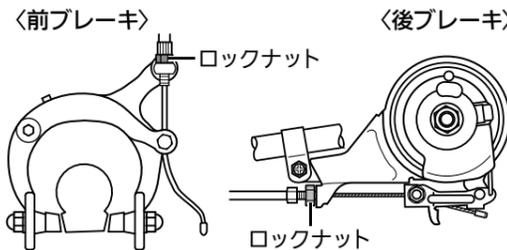
■前ブレーキだけを強くかけない

(車輪がロックし、自転車が前方に転倒し、けがのおそれ)



■前後ブレーキのロックナットは確実に締め付ける(40ページ)

必ず守る



〈前ブレーキ〉

〈後ブレーキ〉

ロックナット

ロックナット

(ブレーキの調整が狂い、転倒や衝突によるけがのおそれ)

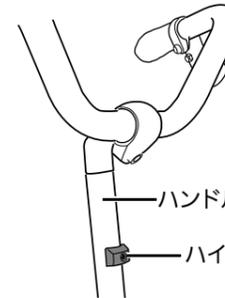
警告

ハンドルについて



必ず守る

■ハンドルステムのハイトストッパーを外して、ハンドルステムを一番下まで下げない



ハンドルステム

ハイトストッパー

(固定が不完全になる場合があり、転倒や衝突によるけがのおそれ)

バッテリーライトについて



禁止

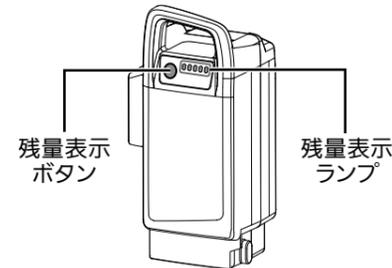
■ライトの取り付けが緩んだまま、走行しない

(前方を照らす角度が狂い、衝突や転倒によるけがのおそれ)
⇒乗るまえに点検してください。

■ライトの光を見続けられない

(目を痛める原因)

■夜間走行する場合、バッテリー残量が少ない状態のときには乗車しない



残量表示ボタン

残量表示ランプ

(消灯後の乗車は衝突や転倒によるけがのおそれ)
⇒夜間走行中、ライトが点滅状態や消灯状態になった場合、押して歩いてください。
無灯火での夜間走行は、法令違反になります。
⇒走行中アシストが切れた場合、ライトはしばらく点灯したあと消灯します。

前車輪旋回抑制機構について

前車輪旋回抑制機構(スタピタ2)：スタンドを立てるとハンドルが回りにくくなる機構



禁止

■幼児をチャイルドシートの上で立たせない

(前車輪旋回抑制機構の抑制力以上の力が働き、前車輪が回って自転車が転倒し、けがのおそれ)



必ず守る

■チャイルドシートのシートベルトを外したらすぐに幼児を降ろす*

■自転車を停止させ、幼児を乗せたまま自転車から離れず、すぐに幼児を降ろす*

※(幼児が立ったりあばれたりすると、前車輪旋回抑制機構の抑制力以上の力が働き、前車輪が回って自転車が転倒し、けがのおそれ)

■スタンドを走行状態にしたとき、ハンドルがスムーズに操作できることを確認してから乗る

(ハンドルの旋回が抑制されて、転倒によるけがのおそれ)
⇒スタンドを跳ね上げてハンドルが回らない場合は、ご使用を中止し、販売店にご相談ください。

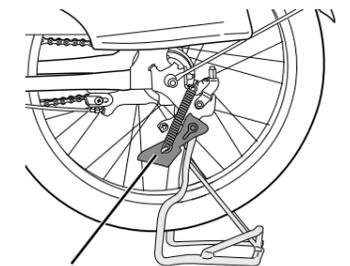
スタンドについて



必ず守る

■荷物の積み降ろしや、幼児の乗せ降ろしをする際には、安全のためスタンドロックが正常なロック位置にあることを確認する

(スタンドが跳ね上がり、転倒によるけがのおそれ)



スタンドロック

〈正常な位置〉

■幼児を乗せてスタンドの操作をする場合は、十分練習してから使用する

(ふらつきや転倒によるけがのおそれ)

安全上のご注意(つづき)

警告

ボタン・コイン電池について



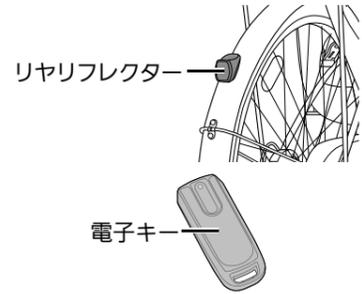
禁止

■ボタン・コイン電池は次のような使いかたをしない

- 充電器などで充電する
- 電池を火の中に投入する
- 電池をショートさせる
- 電池の⊕⊖を逆にして使用する
(電池が発熱・液漏れ・破裂によるけがのおそれ)

■ボタン・コイン電池は乳幼児の手の届く所に置かない

- (誤って飲み込むと、身体に悪影響)
⇒万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。
- ボタン・コイン電池はリヤリフレクター、電子キーに使用しています(種類は違います)。

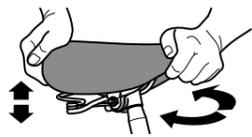


サドルについて



必ず守る

■調整後は必ずがたつきやずれが無いか点検をする



(シートポストが折れたり、固定が不安定になったりし、転倒によるけがのおそれ)

チェーンについて



禁止

■たるんだまま走行しない

(チェーンのたるみが大きくなると、走行時にチェーンが外れやすくなり、転倒や衝突によるけがの原因)
⇒ご使用を中止し、販売店で調整してください。

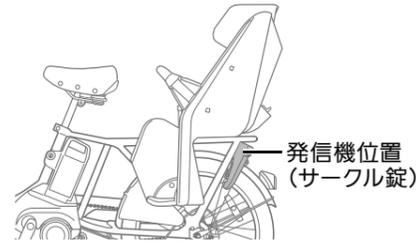
ラックシステムについて



禁止

■植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器装着者は発信機から22 cm 以内に近づかない

(電波によりペースメーカー・除細動器の作動に影響を与えるおそれ)
●自転車本体の後輪サークル錠の発信機からラックシステムの電波が発信されます。



⇒そのほかの医療用電子機器を使用している方は、医師や医療用電子機器製造業者に影響を確認してからご使用ください。



必ず守る

■乗車まえに後輪サークル錠が開錠しているか確認する

(開錠していない場合、カンヌキが車輪に引っ掛かり、転倒によるけがのおそれ)
⇒ラックシステムの場合、相互認証ができておらず、後輪サークル錠が開錠していないときがありますので、必ず確認してください。

警告

荷物を積むときは



禁止

■積載条件(積載質量、積載物の大きさ)から外れる荷物を積まない(☞53・54 ページ)



(リヤキャリアやフレームが破損したり、ふらついて転倒によるけがのおそれ)

■リヤキャリアを変造および改造はしない

(部品が破損したり、外れたりし、転倒によるけがのおそれ)



必ず守る

■荷物でリヤリフレクターが隠れないようにする

(事故によるけがのおそれ)

■荷物は確実に固定する

(バランスを崩したり、ひもやベルトを後車輪に巻き込んで、転倒によるけがのおそれ)

■初めて荷物を積載するときは、安全の確保

できる場所で、十分練習してから乗車する
(バランスを崩したり、ブレーキの利が悪くなることにより、転倒によるけがのおそれ)

包装の袋などは



禁止

■取扱説明書が入っているポリ袋や、サドル・バスケットのポリ袋は幼児の手の届く所に置かない

(頭からかぶるなどしたときに、口や鼻をふさぎ窒息するおそれ)

定期点検は



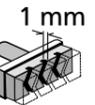
必ず守る

■必ず実施する

(異常や故障の発見がくれ事故発生によるけがのおそれ)

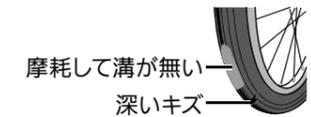
■ブレーキワイヤ・変速ワイヤは、外観上異常が無くても2年に1回は、交換する*

■ブレーキブロックは、溝の残りが、1 mm になるまえに交換する*



■ブレーキブロックは、リムにあった純正ブレーキブロックに交換する*

■タイヤは、接地面(トレッド)の溝がなくなるまえに交換する*



※(ブレーキが利かなくなり、スリップのため転倒によるけがのおそれ)

⇒タイヤは仕様(☞76 ページ)のタイヤ寸法にあったものと交換してください。
⇒交換は販売店に依頼してください。



禁止

■リム(アルミリム)に著しい摩耗のあるときは乗らない

ブレーキブロック



(リムが破損し、転倒によるけがのおそれ)

⇒リム交換マークが見えなくなったら新しいリムと交換してください。
⇒交換は販売店に依頼してください。

安全上のご注意(つづき)

警告

自転車に乗るまえに

必ず守る
■乗るまえの点検は必ず行う*



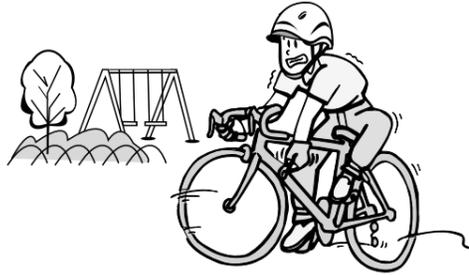
⇒点検の詳細については36ページを参照してください。

■自転車を身体に合わせる*



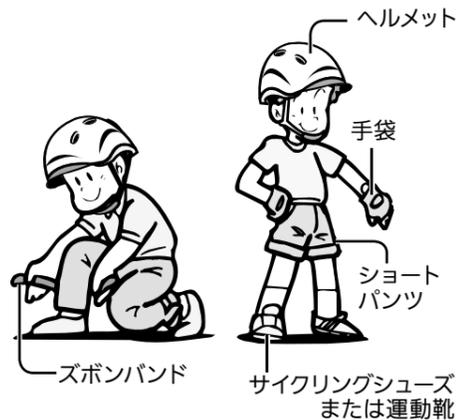
⇒正しい姿勢で乗車できるよう、上図のように販売店で調整してもらってください。
⇒操作して次のことを確認してください。
①円滑なペダリングができる。
②ブレーキや変速機が確実に操作できる。
③ハンドル操作が容易にできる。

必ず守る
■自転車に慣れるまでは、車が通らない平坦な場所(公園や広場など)で十分練習する*



⇒よく練習してから一般道路でお乗りください。
⇒電動アシスト自転車の場合、慣れるまでは「ロング」で走行してください(61ページ)。

■安全な服装を着用する(車輪に巻き込まれやすい服装はしない)*



⇒ズボンの汚れやチェーンへの巻き込み、ギヤへの引っ掛かりなどを防止するために、チェーンやギヤがむき出しの自転車に乗るときは、ズボンの裾をズボンバンドで止めてください。

※(衝突や転倒によるけがのおそれ)

警告

安全に乗るために

禁止
■安全装置は、取り外さない
(外したまま使用すると、事故発生によるけがのおそれ)(35ページ)

■走行中、手元スイッチの操作をしない
(電源の入切、アシストモードの切替、ライトの操作など)
(上り坂や発進時、誤操作などでアシストが切れたときに、バランスを崩したり、片手運転になり転倒によるけがのおそれ)
⇒必ず停止して、操作をしてください。

■停車中は、前後ブレーキをかけた状態にし、ペダルに足を乗せない



(不用意なアシスト力が働き転倒や接触事故によるけがのおそれ)

■スピードをだしすぎない



(衝突や転倒、接触事故によるけがのおそれ)

禁止
■発進時または低速走行時は、ペダルを強く踏み込まない



(思わぬ急発進やアシストの働きにより転倒や衝突事故によるけがのおそれ)
⇒強く踏み込まなくても、楽に発進することができます。

■バッテリー残量が少ない状態(残量表示が点滅状態)のときには、上り坂で乗車しない



(アシストが切れたときに、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)

■スタンドを下げた状態で、乗らない(発進しない)

(スタンドが変形・破損して、走行中に引っ掛かりバランスを崩して転倒し、けがをするおそれ)
⇒スタンドを上げてから乗車してください。

■後輪サークル錠は走行中に作動させない
(車輪がロックされ転倒によるけがのおそれ)

安全上のご注意(つづき)



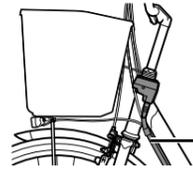
安全に乗るために



禁止

■パンクしたままやタイヤの空気圧を確認せずに走行しない
(ハンドルが取られ、転倒や衝突によるけがのおそれ)

■走行中にスタンドを下げたり、スタピタワイヤを引っ張らない



スタピタワイヤ

(ハンドルが固定され、転倒によるけがのおそれ)

■けんけん乗り(けり乗り) しない



(転倒や接触事故によるけがのおそれ)

⇒ペダルを強く踏めば、モーターがそれに応じて強いアシスト力を出すため、乗り込む際に自転車が飛び出し、危険です。必ずサドルにまたがって、発進してください。

●けんけん乗り(けり乗り) とは、片足でペダルをこぎながら助走し、反動を付けてサドルにまたがる乗りかたです。

変速するときは

■一度に2段変速しない
(一気に変速すると、ショックが大きく、転倒によるけがのおそれ)
⇒1段ずつ変速してください。

■ペダルを踏み込みながら変速しない
(変速操作に対し、実際のギヤの切替が遅れ、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)

交通事故を防ぐために



警告



車の横を走るときは!

■開くドアや人の飛び出しに注意する*



学校や公園が近くにあるときは!

■子供の飛び出しに注意する*



交差点を通るときは!

■左折車に巻き込まれないように注意する*



※(事故による重大なけがのおそれ)

転倒事故を防ぐために



禁止

こんな使いかた

■走行以外に使わない(踏み台代わりなど)



(転倒によるけがのおそれ)

■スポークの間に固形物(ボールなど)を入れて走らない



(車輪に巻き込まれ、車輪の異常ロックや転倒によるけがのおそれ)

こんな乗りかた

■傘やステッキ、釣りざおなどを車体に差し込んだり、釣り下げたりして乗らない*



■路上の異物を不用意に踏まない*

■車輪の近くに取り付けてある部品の固定が確実であるかを確認せずに乗らない*

■ブレーキをかけたときにブレーキブロックがタイヤに接触していたり、リムからはみ出していないかを確認せずに乗らない*

※(車輪に巻き込まれ、車輪の異常ロックによる転倒や、ほかの人や物にぶつかって事故によるけがのおそれ、特に前輪への巻き込みは前転により大きな被害になるおそれ)

自動車や子供に注意!
安全を確認し、乗りましょう



安全上のご注意(つづき)

警告

転倒事故を防ぐために



- 手やハンドルに荷物をかけたり、ペットをつないだりしない



(荷物やひもが、車輪に巻き込まれ、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)

- 巻き込みやすいものを車輪やギヤに近接させて乗らない(長いスカートやマフラー、傘やペットのひもなど)



(車輪やギヤに巻き込まれ、車輪の異常ロックや転倒によるけがのおそれ)

- 土踏まずやかかとでペダルを踏まない



(カーブでつま先が前車輪に当たり転倒によるけがのおそれ)

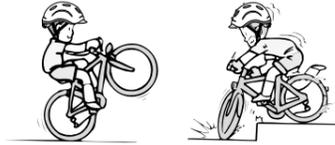
- 滑りやすい靴や、かかとの高い靴、厚底靴などをはいて乗らない



(ペダルから足が外れ、転倒によるけがのおそれ)



- アクロバット的な乗りかたはしない*
- 段差の乗り降りをしてしない*



※(転倒や落車によるけがのおそれ)

- カーブで曲がる側のペダルを下げない



(ペダルが地面と接触し、転倒によるけがのおそれ)

- 合図以外は、ハンドルから手を離さない



(バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)

警告

転倒事故を防ぐために

こんな場所

- 雨・風・雪のひどいときは乗らない



(バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)

- 滑りやすい所では乗らない(積雪や凍結した道、鉄板やぬかるみなど)



(スリップして、転倒によるけがのおそれ)
⇒降りて、押して歩いてください。

- 凹凸の激しい所を走らない(歩道の段差や、溝など)



(フレームや車輪の損傷や転倒によるけがのおそれ)
⇒降りて、押して歩いてください。

保管するときは



- 不安定な場所に自転車を保管しない
(自転車動き出したり、風などで自転車が転倒したりして事故につながるおそれ)

運搬するときは



- 自転車を運搬するときはバッテリーを外す
(自動車への積載時など、運搬の際に不意にペダルが押された場合にセンサーが感知し、車輪が回転し、巻き込まれてけがをするおそれ)
必ず守る

安全上のご注意(つづき)



警告

チャイルドシートを使用するときは



必ず守る

■チャイルドシートに幼児を乗せる場合は49～54ページの内容に従う
(幼児が落下して、けがをするおそれ)

■幼児の体重は、チャイルドシートが指定する最大適用体重以下であることを確認する(54ページ)

⇒本自転車は幼児2人同乗用自転車です。幼児2人を乗せる場合は、弊社指定のチャイルドシートを装着してください(78ページ)。

■使用中、幼児の手足が届く範囲に錠がある場合は、幼児が操作しないように注意する

(車輪がロックされて自転車が転倒し、けがをするおそれ)

■乗車および走行中は、必ず幼児にヘルメット(SG規格適合の自転車用ヘルメットと同等以上のもの)を着用させる



(幼児がけがをするおそれ)

⇒ヘルメットを着用させないでチャイルドシートに子供を乗せると、事故時に致命的な傷害を受ける確率が高くなりますが、着用させた場合は軽傷で済むことが報告されています。



必ず守る

■適用年齢、体重制限、自転車のリヤキャリアに表示されている積載重量、身長制限、定員を守る(49・54ページ)*

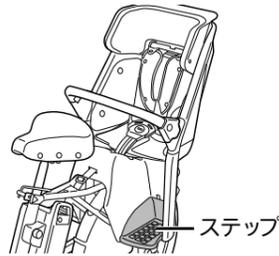
■乗車および走行中は、必ず幼児にグリップを持たせ寝ないように留意する*

■乗車および走行中は、必ず幼児にシートベルトを着用させ、正しい姿勢を取らせる*

※(幼児が落下して、けがをするおそれ)

⇒乗せることができる幼児は、年齢1歳(12か月)以上ですが、特に後チャイルドシートは目が届きにくいので、幼児が急に立ちあがりしても気づかないおそれがあります。必ず、シートベルトを装着してください。

■走行中は、幼児の足が車輪に巻き込まれないよう、幼児の足はステップに乗せる*



■ステップは、必ず幼児の体型にあった位置に調整し、取り外したりしない*

■幼児を乗せるときは必ず靴をはかせる*

※(幼児の足が車輪に巻き込まれ、けがをするおそれ)

■幼児は荷物などよりもあとに乗せ、最初に降ろす*

■幼児の乗せ降ろしの際は、ハンドルをまっすぐにした状態で平坦な場所に駐輪し、必ず幼児を抱いて行う。また、スタンドロックがかかっているか確認して行う*



■スタンド操作時は、ハンドルや車体をしっかり押さえる*

※(自転車が転倒し、幼児が落下してけがをするおそれ)



警告

チャイルドシートを使用するときは



必ず守る

■幼児を乗せるときは、安全の確保できる場所で十分練習してから乗車する

(自転車にチャイルドシートを取り付け、幼児を同乗させることにより、自転車のハンドル操作や走行安定性を損ない、ブレーキをかけたときに制動距離が長くなり、バランスを崩したり、転倒によるけがのおそれ)

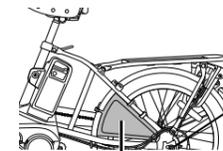
■急ブレーキ、急ハンドルは避ける

(転倒や衝突によるけがのおそれ)

■炎天下での駐輪時、チャイルドシートが熱くなっていないか確認してから幼児を乗せる

(幼児がやけどするおそれ)

■ドレスガードが取り付けられているか確認する



ドレスガード

(車輪に手足を巻き込まれ、けがをするおそれ)
⇒ドレスガードが装備されていない場合は、販売店にご相談ください。

■幼児は自転車の左側から乗車させる

(チャイルドシートのグリップバーが引っ掛かって自転車が転倒し、幼児が落下してけがをするおそれ)



禁止

■チャイルドシートが、自転車に確実に取り付けられていることを確認し、ねじの緩み・破損・変形などがある状態での使用はしない*

■補助ベルトにたるみがある状態で使用しない*



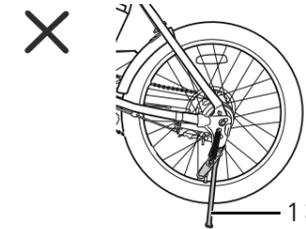
補助ベルト

※(チャイルドシートが脱落して、けがをするおそれ)



禁止

■1本スタンドに交換しない



1本スタンド

(自転車が転倒し、幼児が落下してけがをするおそれ)

⇒必ず、純正のスタンドをご使用ください。

■幼児にチャイルドシートのステップ、チェーンケースやフレームを踏み台にして乗り降りさせない*



■幼児にステップおよび座面の上に立ちあがらせない*

※(ステップやチェーンケースが変形・破損したり自転車が倒れたりし、幼児がけがをするおそれ)

■チャイルドシート以外の場所に幼児を乗せない*

■チャイルドシートに幼児を乗せているときは、短時間であっても、自転車から離れない*

■幼児を乗せたまま駐輪しない*

※(自転車が転倒し、幼児が落下してけがをするおそれ)

■チャイルドシートに幼児を座らせている場合、可動部に触れさせない

(車輪やギヤに手足を巻き込まれ、けがをするおそれ)

安全上のご注意(つづき)



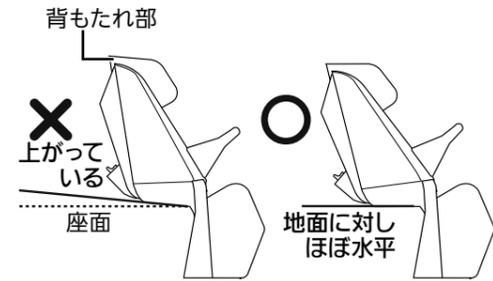
警告

チャイルドシートを使用するときは



禁止

■前に傾いている状態で使用しない



(幼児が前方にずれたり、落下してけがをするおそれ)
⇒必ず地面に対してほぼ水平に組み付けてあることを確認してください。



必ず守る

■背面ポケットから荷物がはみ出し、車輪に巻き込まれないように注意する



(車輪がロックされて、転倒や落下によるけがのおそれ)

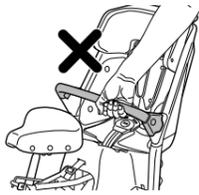
グリップバーについて



禁止

■グリップバーに無理な力をかけない*

- スタンドを立てるとき
- 押し歩き時



■グリップバーに幼児をぶらさげさせない*

※(お子様が落下してけがをするおそれ)



必ず守る

■グリップバーが確実に固定されていることを確認する

(お子様が落下してけがをするおそれ)



禁止

シートベルトについて

■シートベルトが緩んだ状態で走行しない (お子様が落下してけがをするおそれ)

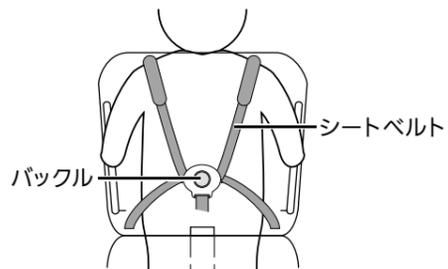


必ず守る

■幼児を乗せたらすぐにシートベルトを装着する*

■シートベルトを外したらすぐに幼児を降ろす* ※(幼児が立ったり、あばれたりすると、不安定で自転車が転倒し、けがのおそれ)

■必ずシートベルトのバックルを外してから幼児を降ろす

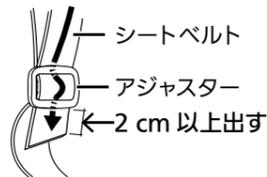


(ベルトが幼児の身体に引っ掛かり、けがをするおそれ)

■シートベルトが車輪に巻き込まれないように注意する

(車輪がロックされて自転車が転倒し、けがをするおそれ)

■シートベルトをアジャスター穴に通したときは、必ずシートベルトの先端を2 cm 以上出す



(シートベルトが外れ、幼児が落下してけがをするおそれ)



警告

チャイルドシートを使用するときは



禁止

幼児 2 人同乗するとき

■幼児を乗せたまま自転車を押し歩きするとき、狭い所や混雑した場所には進入しない



(歩行者や自転車と接触し、乗せている幼児の動き、路面の凹凸・傾斜などにより、自転車の立て直しができずにバランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)

■幼児を乗せたまま自転車を押し歩きするとき、ハンドルを大きく切らない



(ハンドルを大きく切った際に、自転車が左右に傾きやすくなり、転倒によるけがのおそれ)
⇒傾斜面や路面の凹凸がある所では、特に起こりやすくなりますのでご注意ください。

■走行中、幼児に手元スイッチ、ブレーキなどをさわらせない

(上り坂や発進時、アシストが切れたときや急にブレーキがかかったときに、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)



必ず守る

■幼児 2 人を乗せる場合、必ず弊社指定のハンドル取り付け式チャイルドシートを装着する

(破損、変形によりけがをするおそれ)
⇒この自転車は幼児 2 人同乗用自転車ですが、指定品番(☎78 ページ)のチャイルドシートを取り付けたときに安全基準に適合するように設計されていますので、必ず指定品番のチャイルドシートを使用してください。

■幼児を乗せた状態で押し歩きする場合は、ハンドルを両手でしっかり押さえる



(後方へ転倒したり、幼児がけがをするおそれ)
⇒ハイバック式チャイルドシートでは重心が後寄りになりますのでご注意ください。

安全上のご注意(つづき)



警告

チャイルドシートを使用するときは



必ず守る

■ハンドル部のチャイルドシートに幼児を乗車させた場合、前方下方の視野が悪くなるので注意して運転する*



■幼児を2人乗せることにより全体の質量が増大し、衝突などの際の衝撃が大きくなり同乗幼児および乗員の被害が大きくなるので十分に注意する。また、歩行者などと衝突した場合には歩行者などの被害が大きくなるので十分に注意する*

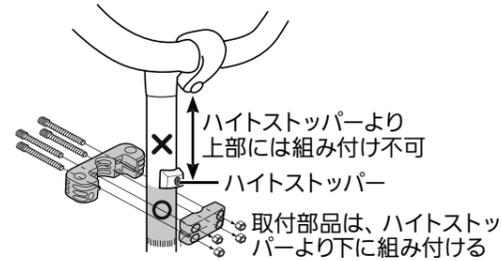
※(バランスを崩し、接触事故などによるけがのおそれ)



必ず守る

■チャイルドシートの組み付けに際して、自転車のハンドルを上下する必要があるときは、必ず販売店に相談する
(調整不良などで、ハンドルステムが折れて転倒し、けがのおそれ)

■指定以外の位置に組み付けない



(ハンドルステムが折れたり、チャイルドシートが落下したりして、幼児がけがをするおそれ)
⇒詳しくはオプションの組立説明書をご確認ください。



警告

自転車の交通安全ルールについて



禁止

■次の様な運転は絶対にしない*

- ヘッドホンを使用しながらの運転
- 飲酒運転 ●傘差し運転 ●2人乗り
- 携帯電話を操作しながらの運転
- 信号無視 ●並進



⇒6歳未満の子供をチャイルドシートに1人乗せる場合などを除き、2人乗りは禁止です(幼児2人同乗用自転車を除く)。
⇒「並進可」標識のある場所以外は並進は禁止です。

■30kgを超える荷物を積載しない*

⇒ただし、自転車や取扱説明書などに積載条件の記載がある場合はそちらを守ってください。



必ず守る

■夜間やトンネル内、視界の悪いときは、ライトを点灯して通行する*



⇒夜の無灯火での運転は法令違反です。暗い所ではライトをつけて通行しましょう。
⇒見通しが悪くなり、また自動車から見えにくくなりますので危険です。前照灯がつかない場合やリフレクターが破損したり汚れているときは、押して歩いてください。

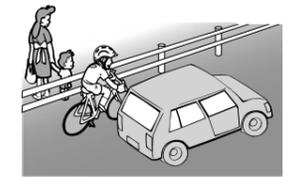


必ず守る

■保護者は13歳未満の子供が乗車するときは必ずヘルメットを着用させる*

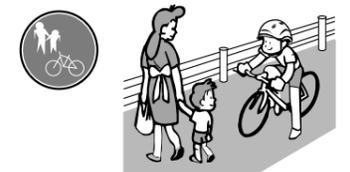


■自転車は、車道を通る*



⇒歩道と車道の区別のある所は、自転車は車道の左端に寄って通行しましょう(路側帯がある場合でも、自転車の通行は道路の左側部分に設けられた路側帯に限定されます)。
⇒次の様な場合は、歩道通行ができます。

- 自転車歩道通行可の標識などで指定されている場合
- 運転者が児童、幼児、70歳以上の場合
- 車道や交通の状況から見てやむを得ない場合



⇒歩道は歩行者優先、車道寄りを徐行してください。

■交差点では一時停止と安全確認を行う*



⇒一時停止の標識を守り、広い道に出るときは、徐行と安全確認をしてください。
⇒信号機がある場合は、信号を必ず守りましょう。

※(交通ルールを守らないと衝突や転倒によるけがのおそれ)

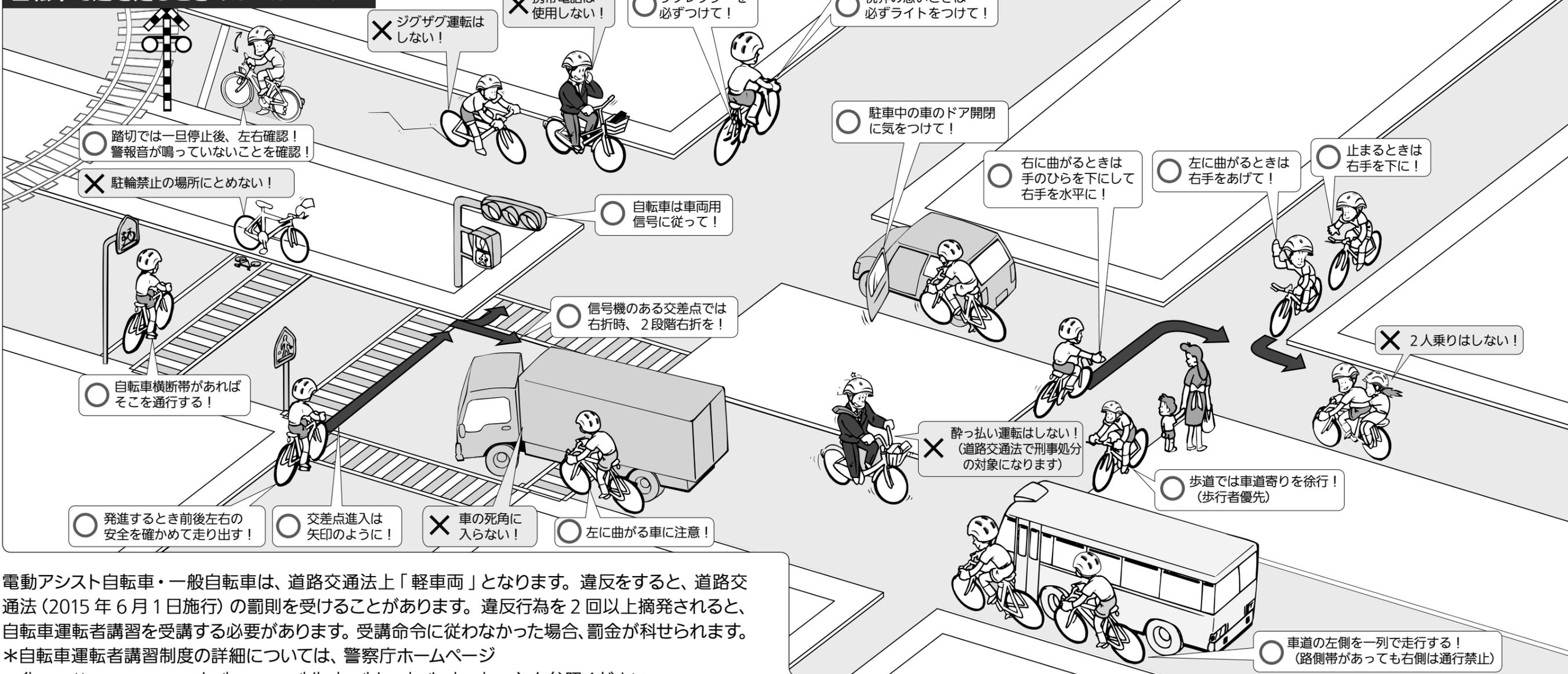
使用上のお願い

必ずお守りください

けがをせずに、ほかの人にも迷惑をかけないために、乗りかたや交通ルールを守りましょう。

- 安全のため、ヘルメットの着用をお勧めします。
- 万一の事故に備え、対人・対物賠償保険に加入されることをお勧めします。
(加入義務化の地域もありますので、ご使用先の自治体にご確認ください)

自転車で道を走るときのルール・マナー



電動アシスト自転車・一般自転車は、道路交通法上「軽車両」となります。違反をすると、道路交通法(2015年6月1日施行)の罰則を受けることがあります。違反行為を2回以上摘発されると、自転車運転者講習を受講する必要があります。受講命令に従わなかった場合、罰金が科せられます。

*自転車運転者講習制度の詳細については、警察庁ホームページ

(<http://www.npa.go.jp/koutsuu/kikaku/bicycle/index.htm>) を参照ください。

自転車運転者講習の対象となる危険行為

- 信号無視 ●指定場所一時不停止等 ●酒酔い運転 ●歩道通行時の通行方法違反 ●遮断踏切立入り
- 制動装置(ブレーキ)不良自転車運転 ●通行禁止違反 ●交差点安全進行義務違反等 ●通行区分違反
- 歩行者用道路における車両の義務違反(徐行違反) ●交差点優先車妨害等 ●安全運転義務違反
- 環状交差点安全進行義務違反等 ●路側帯通行時の歩行者の通行妨害

自転車安全利用五則

1. 自転車は、車道が原則、歩道は例外
2. 車道は左側を通行
3. 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
4. 安全ルールを守る
 - 飲酒運転・2人乗り・並進の禁止
 - 夜間はライトを点灯
 - 交差点での信号遵守と一時停止・安全確認
5. 子供はヘルメットを着用

乗ったあとは

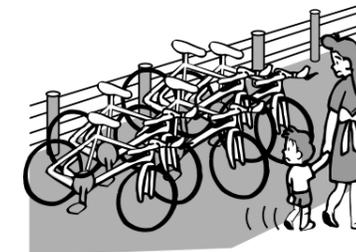
決められた場所に駐輪してください

- 駐輪するときは、ほかの人に迷惑にならないよう、決められた場所にとめましょう。
- 盗難防止のため、必ずかぎをかけましょう。
- ワイヤ錠を使用するなど、二重施錠をお勧めします。



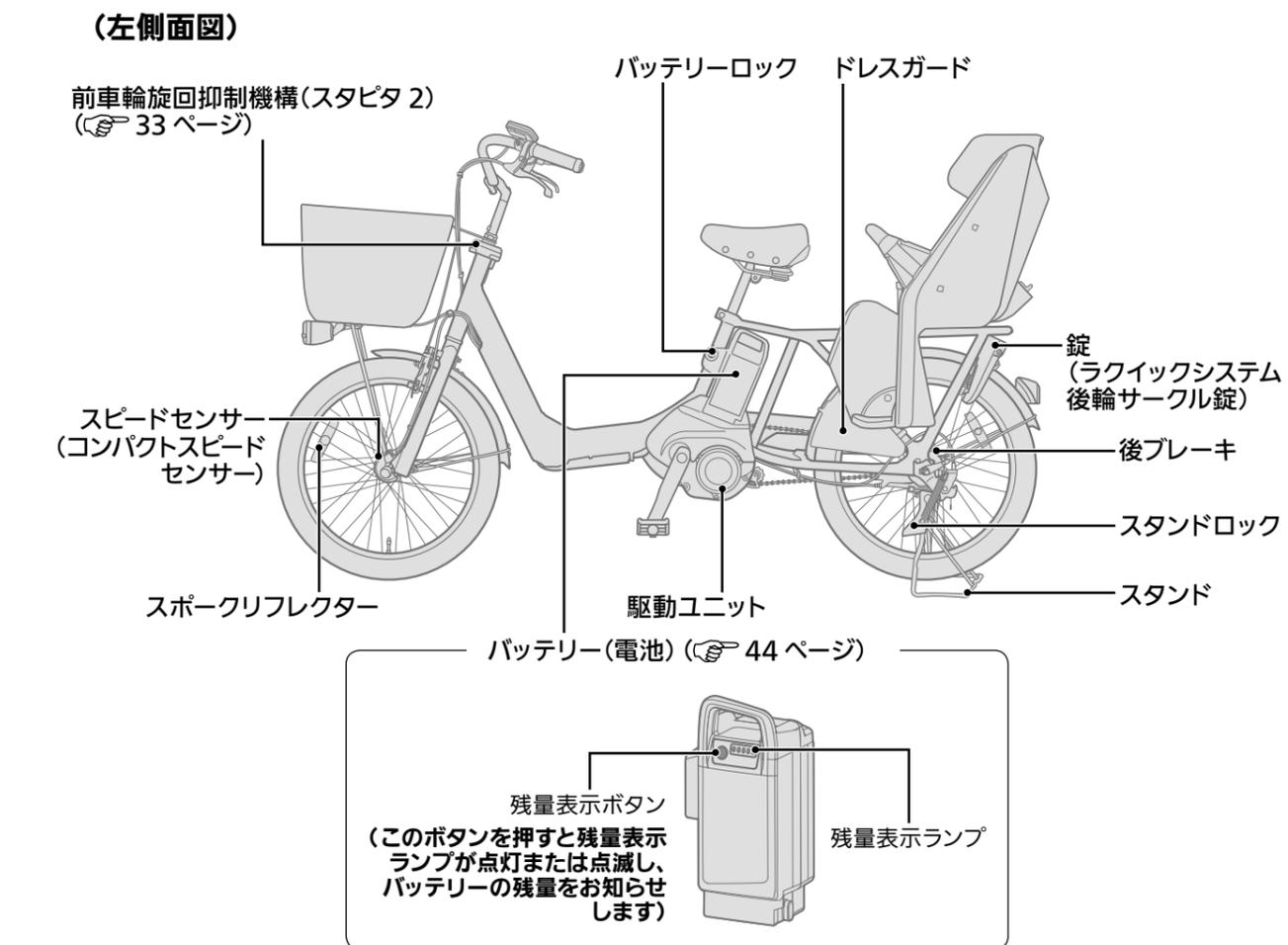
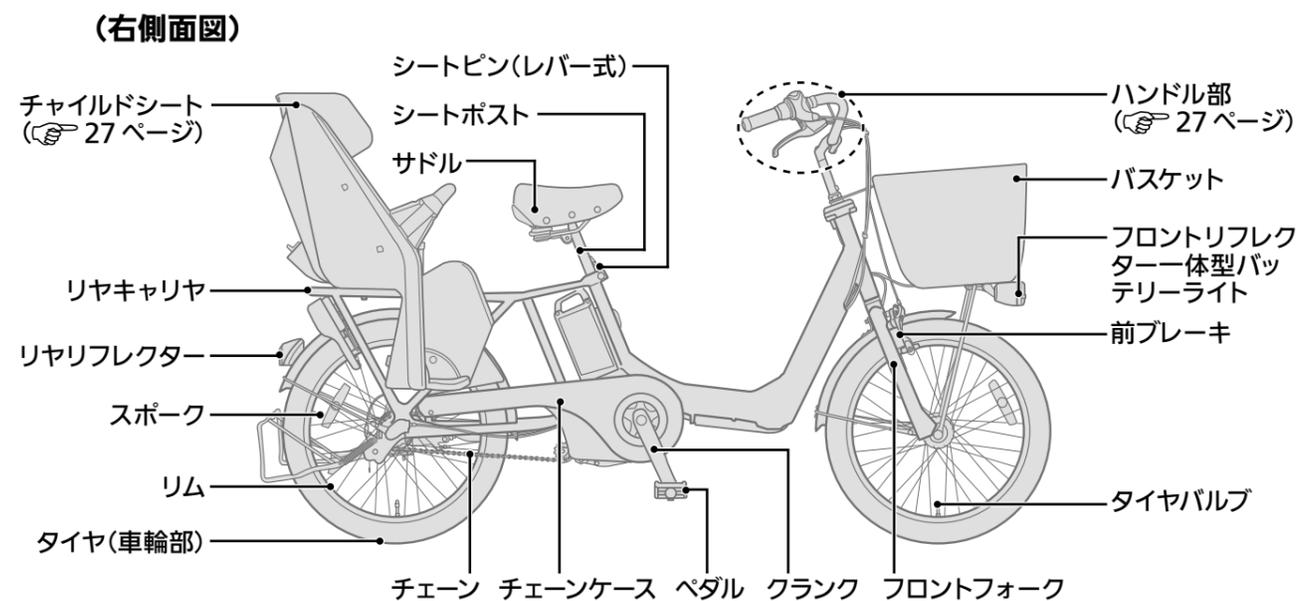
自転車放置禁止

- 自転車の放置は、ほかの人に迷惑をかけるばかりで無く、環境悪化の原因となります。絶対にやめましょう。

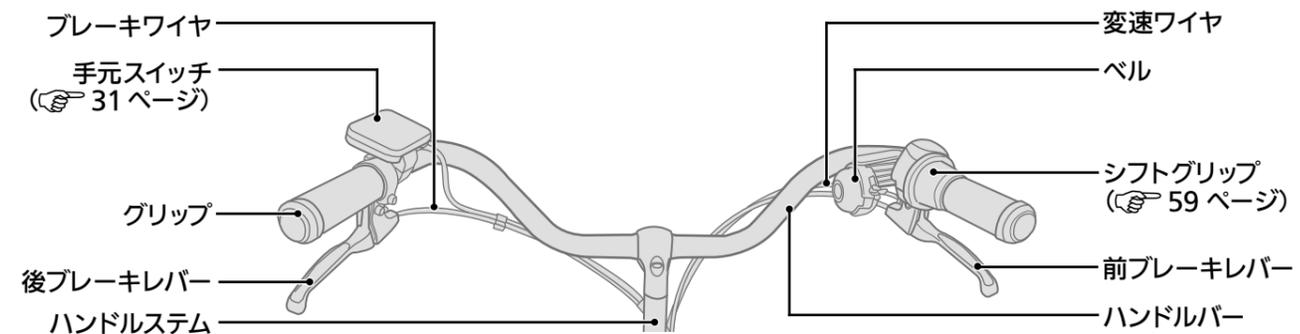


各部のなまえとはたらき

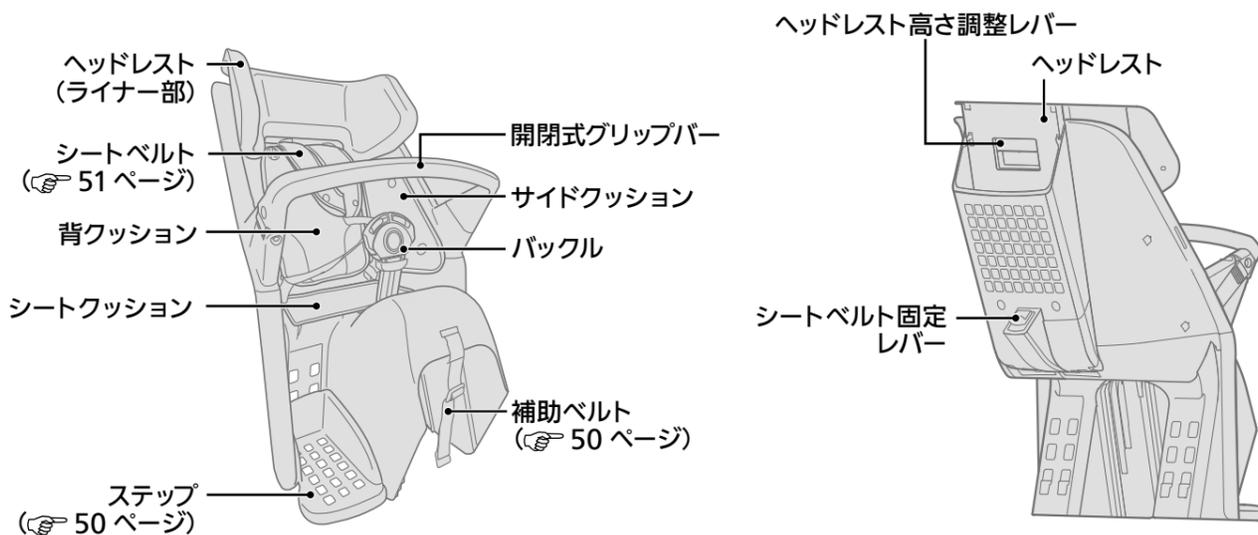
■自転車本体



■ハンドル部



■チャイルドシート

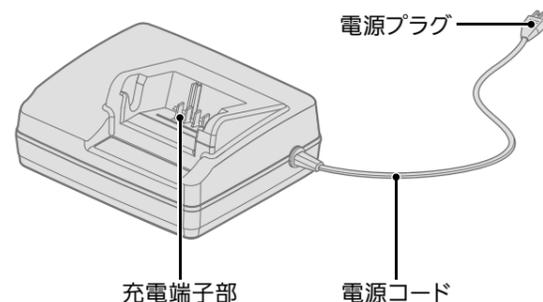


各部のなまえとはたらき(つづき)

■付属品

自転車本体のほかに、下記のものすべてが含まれていることをご確認ください。

●充電器



- かんたん操作ガイド
- 取扱説明書(本書)
- ご愛用者登録はがき
- 保証書
- ギョットあんしん傷害保険加入申込書
- ボルト・ナット・キャップ(サドル最下時使用)

●電子キー(1個)※電子キー内のコイン電池はモニター用です。

はじめて使用する場合は、コイン電池を交換したときは ON/OFF ボタンを長押しして、作動可能状態にしてください。



作動状態の確認

ON/OFF ボタンを軽く押すと LED が点灯し作動状態が確認できます。

緑色(作動可能状態)	ラックシステムの認証ができる ※通常はこの状態で保持することをお勧めします。
赤色(作動停止状態)	ラックシステムの認証ができない

⚠ 注意



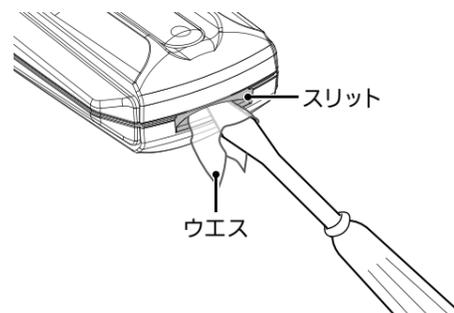
- 以下のようなことはしない
- 衝撃を与えること
 - 落下 ●水ぬれ ●水没 (故障するおそれ)

お知らせ

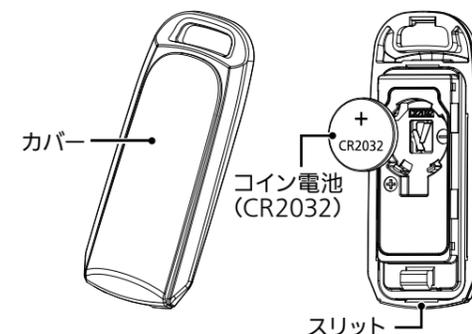
- 電子キーの ON/OFF だけではラックシステム(後輪サークル錠)は作動しません(☞ 30・55 ページ)。
- 付属の電子キーは登録済みです。追加で 2 個まで、合計 3 個まで電子キーを登録できます(追加の電子キーは別売オプション(☞ 78 ページ))。
- 電子キーのコイン電池は販売店にて交換されることをお勧めします(品番: CR2032)。
- 新しい電池に交換した場合の電池寿命は約 1 年です。

〈コイン電池の交換方法〉

①スリットに、ウエスをあてたマイナスドライバーなどを差し込み、カバーを取り外す

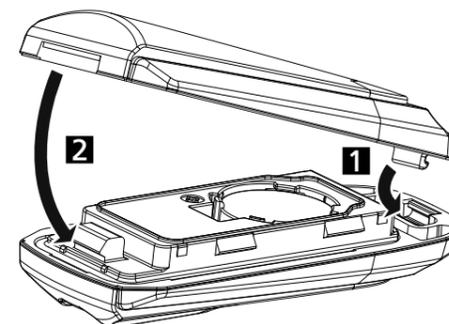


②古いコイン電池を取り出し、新しいコイン電池の⊕側(刻印のある側)をカバー側にしてはめ込む



③カバーを取り付ける

- 1側を引っ掛けてから2側をはめ込む



お願い

- カバーは正しい位置で取り付けられていることを確認してください

●キー(3本)



後輪サークル錠を手動で開錠するときとバッテリーロックの両方に使用します。

お願い

- 電子キーとキーの両方を常に携帯してください。ただし、同時紛失しないよう別々に携帯してください。
- キーは紛失しないよう大切に保管し、キー番号は控えておいてください(83 ページのキー番号欄に記入しておかれることをお勧めします)。キー番号は、キー本体と保証書に記載されています。

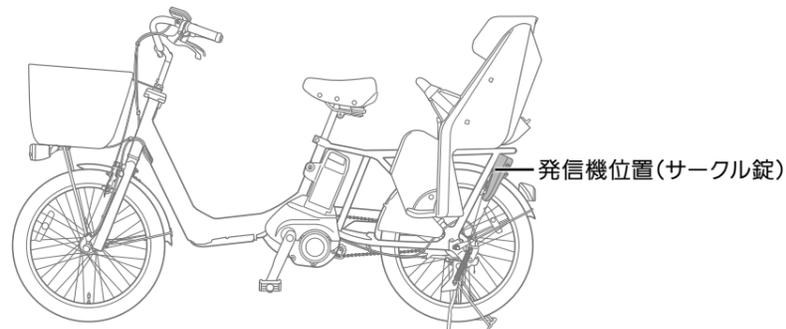
〈スペアキーの購入方法〉

- 電子キー、またはキーを購入される場合はお買い求めの販売店にご相談ください。
- ※キーを紛失された際には、保証書とキー番号(電子キーは通信にてサークル錠と個別認証を行いますのでキー番号はありません)が必要ですので、必ずご持参ください。

各部のなまえとはたらき(つづき)

■ラックシステムについて

ラックシステムは、自転車本体のサークル錠と電子キーの間で相互認証を行い、手元スイッチの電源を入れることで、サークル錠の開錠操作を行うシステムです。施錠操作は手動で行います。発信機は、サークル錠の上部です。



〈作動範囲〉

作動範囲は発信機位置より最小で約 1.2 m 以内、最大で約 3 m 以内の範囲です。

お知らせ

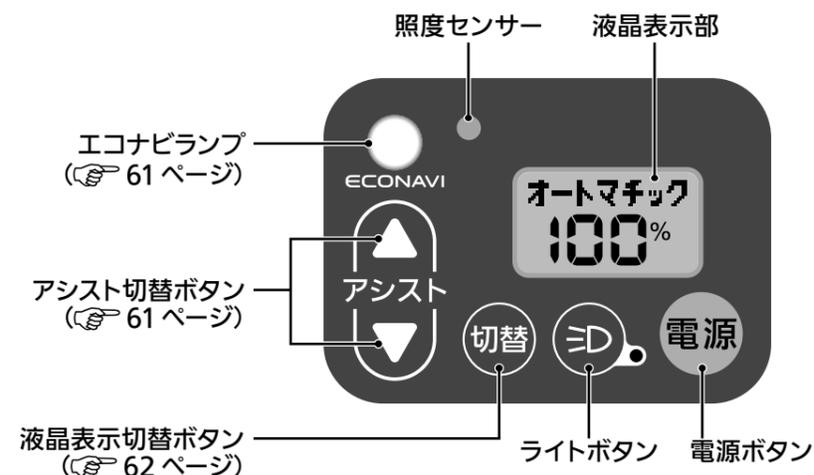
- ラックシステムは、微弱電波を使用しているため、使用環境により作動範囲が広くなったり、狭くなったりすることがあります。
また、以下の使用環境では正常に作動しないことがあります。
 - ・電子キーの電池が消耗しているとき
 - ・近くにテレビ塔や発電所、ラジオ局、空港など強い電波を発生する設備があるとき
 - ・電子キーと一緒にノートパソコン、ラジオ、携帯電話などの無線通信機器を携帯しているとき
 - ・電子キーが金属製のものに接したり、覆われているとき(カバンの中に一緒に入っているなど)
- バッテリー残量表示ランプの LED が 1 つ点滅している場合、バッテリー残量が 0% のときがあります。このときはラックシステムでの開錠ができません。

お願い

- ガラス越しや壁越しなどの隔てた場所でも電子キーがラックシステムの作動範囲内にあると、ほかの人でも開錠が可能です。自転車から離れていても電子キーが作動範囲内の場合は、ラックシステムを作動停止状態にしてください(28 ページ)。
- 乗車時や自転車から離れるときは、必ず乗車者が電子キーを携帯してください。

■手元スイッチ(エコナビ液晶スイッチ 4SL)

バッテリーライトの入切や、アシストの強さ(61 ページ)を変更できます。バッテリー残量も確認することができます(62 ページ)。



- ・電源ボタンを「入」にすると、液晶表示部のバックライトが常に点灯し、表示が見やすくなります。

バッテリーライトの点灯について

電源が「入」の状態でも周囲が暗くなると、照度センサーが働き自動で点灯します(オートライト機能)。明るくなると、自動で消灯します。

〈手動で点灯・消灯したいとき〉

手元スイッチのライトボタンを押すと、電源の入切に関係なく、点灯・消灯することができます。

- ・電源が入った状態で 10 分以上車両を放置すると、自動で消灯します。
- ・ライトボタンを操作すると、オートライト機能は働きません。
- ・手元スイッチの取り付け状態やご使用の周囲環境によって、意図しない点灯・消灯をする場合があります。必要に応じて、手動操作での点灯・消灯の切替をご使用ください。



お知らせ

- アシストがなくなっても、バッテリーライトは点灯します。しばらくするとゆっくり点滅してから消灯しますので点滅状態になったら降りて押してください。ラックシステムは作動しません。
- 電源ボタンが点灯していても、液晶表示部に「アシストなし」と表示されるときは、アシストは働きません。アシストを動作させたい場合は、電源ボタンを押して電源を ON にしてください。

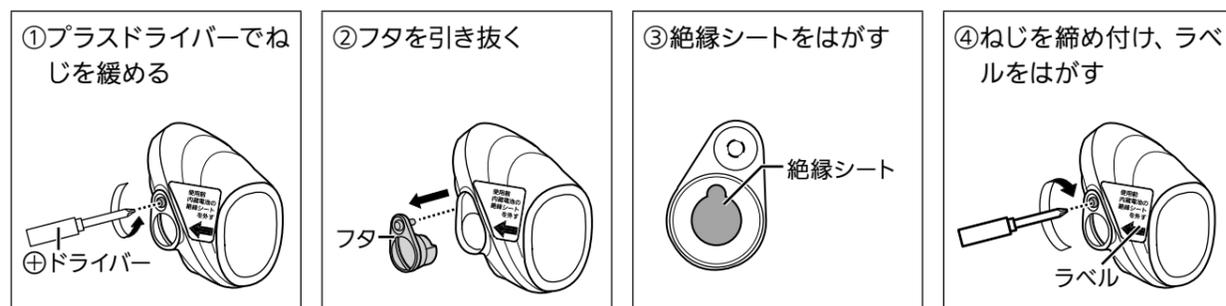
各部のなまえとはたらき(つづき)

■リヤリフレクター(ソーラーオートテール2)

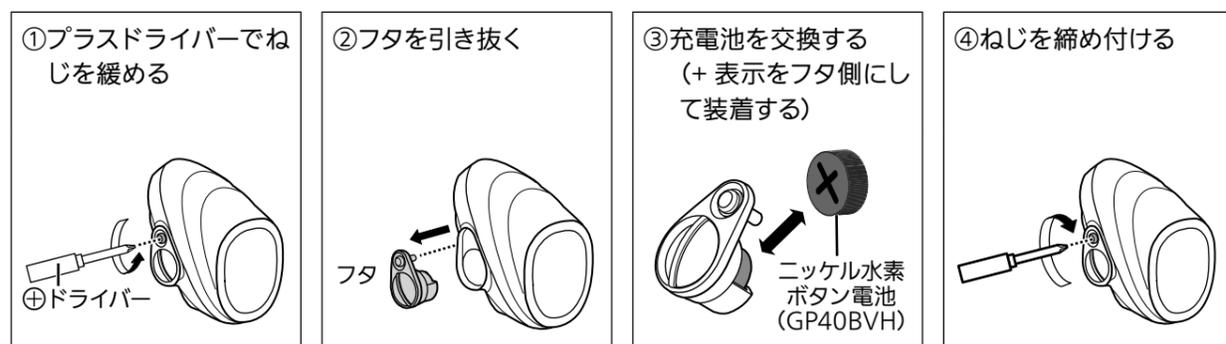
このリヤリフレクターは充電用のボタン電池に太陽光発電(ソーラーパネル)で充電され、走行中に周囲が暗くなると自動で点滅し、停止すると消灯します(ただし、停止後も約1分間は点滅を続けます)。

●ご使用のまえに充電電池の絶縁シートを取り外し、直射日光下で約2時間充電してください。

〈充電電池の絶縁シートの取り外しかた〉



〈充電電池の交換方法〉



お願い

●取り替えたボタン電池は、販売店かリサイクル協力店へお持ちください。

お知らせ

- 内部のLEDは基板直付けのため交換はできません。
- 連続点滅時間は、約8時間(直射日光下2時間放置後満充電時、連続点滅)となっておりますが、ご使用の状況により、変わる場合があります(曇りまたは雨の日でも充電は可能ですが、充電効率が低くなります)。
- リヤリフレクターを覆ったり、暗い所へ自転車を置いたりした場合、充電できずに自動点滅しない場合があります。このようなとき、蓄えた電力量を使い切る深放電が繰り返され、極端に電池寿命が短くなることがあります。
- ボタン電池の寿命は、約2年が目安となっておりますが、ご使用の状況により、変わる場合があります。
- 透明部(受光部)の汚れがひどいと光センサー受光部に光が届きにくくなるため、明るい昼間でも、点滅することがあります。また、太陽電池の充電効率も悪くなります。

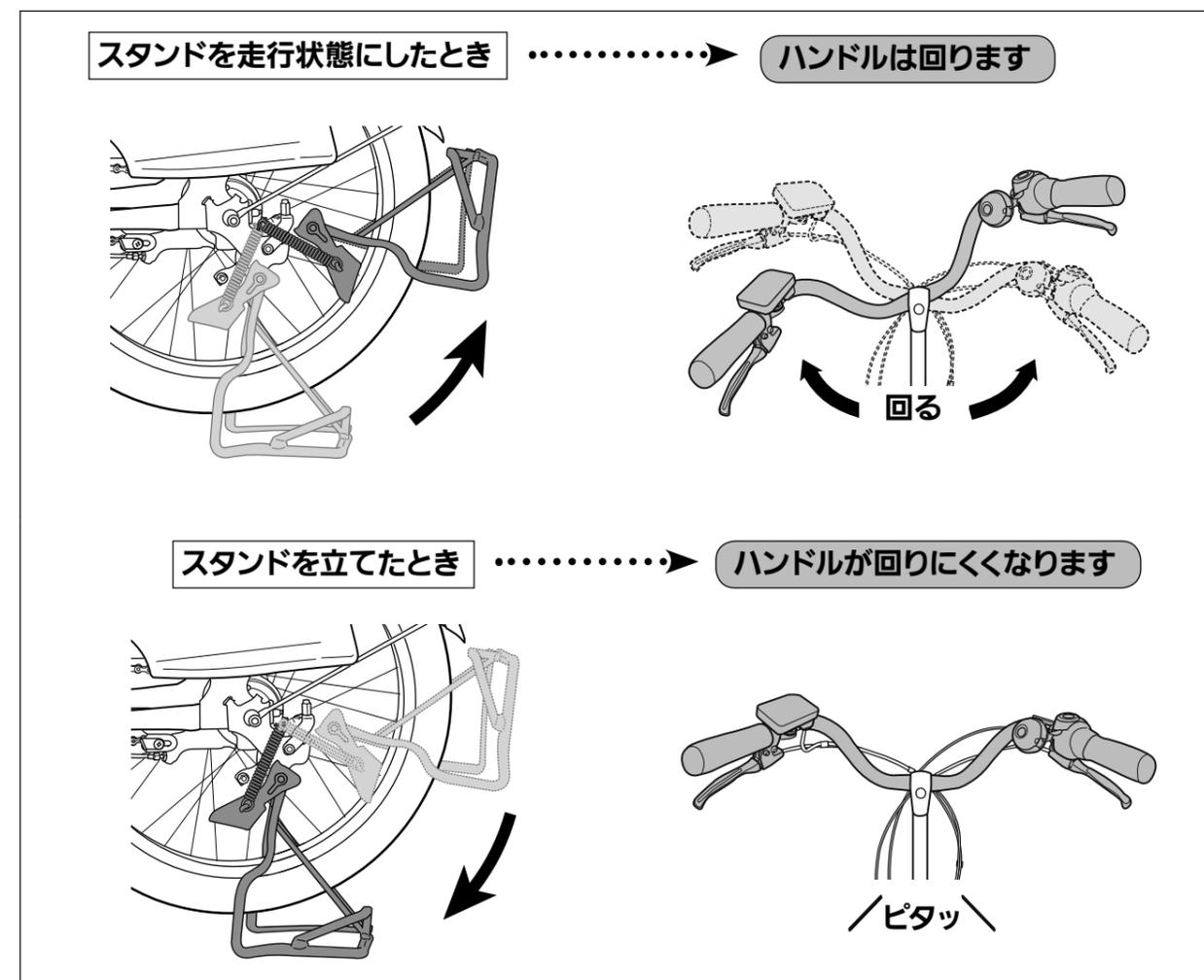


■前車輪旋回抑制機構(スタピタ2)について

スタンドを立てることにより、ハンドルが回りにくくなる当社独自の機能部品です。駐輪するときのハンドルのふらつきや、回転を抑制します。

⚠ 注意

禁止 **前車輪旋回抑制機構が壊れたまま使用しない**
(停車中、ハンドルが回転して転倒し、けがのおそれ)
→ご使用を中止し、販売店にご相談ください。



お願い

●スタンドを立てた状態で、無理なハンドル操作は行わないでください。前車輪旋回抑制機構が壊れる原因になります。

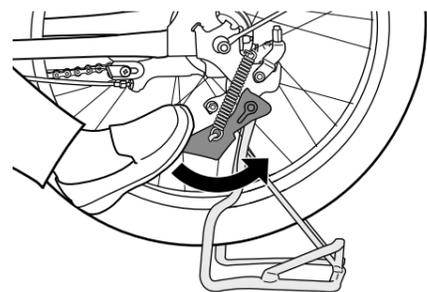
各部のなまえとはたらき(つづき)

■スタンド(かろやかスタンド)について

このスタンドは、駐輪するときにスタンドの端を足で踏むようにすると、幼児や荷物を載せた状態でも比較的楽に立てることができます。

〈スタンドの跳ね上げかた(乗車するとき)〉

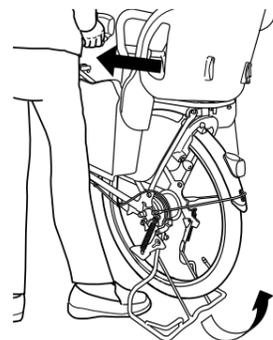
- ①両手で自転車を支え、スタンドロックを足で後ろへ押しロックを解除する



②

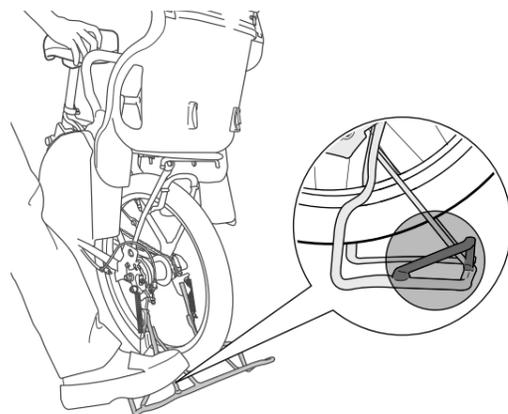
積載物の無いとき

スタンド下部を足で押さえて自転車を前へ押し、スタンドを跳ね上げます。



積載物のあるとき

自転車をしっかり支えて、前に動かすとスタンドがはね上げります。

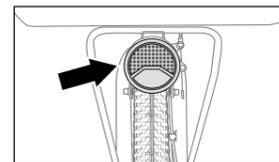


〈スタンドの立てかた(駐車するとき)〉

- ①ブレーキを握ったままサドルから降りる
- ②両手で自転車を支え、スタンドの●の位置を足で踏む
- ③左手でハンドル、右手でサドルを持って後方斜め上に引き上げ、スタンドを立てる
・スタンドロックが自動的にかかります。

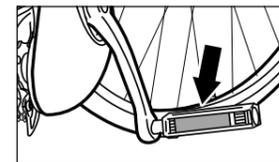
■安全装置

フロントリフレクター (前部反射器)



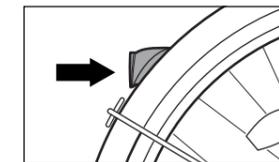
前からの光を反射します。

ペダルリフレクター



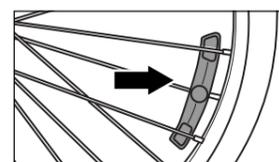
前後からの光を反射します。

リアリフレクター (ソーラーオートテール2)



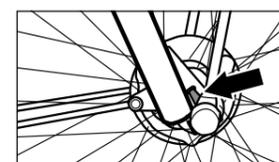
後からの光を反射します。
夜間はLEDが点滅します。

スポークリフレクター



横からの光を反射します。

前車輪脱落防止金具



前車輪の脱落を防止します。

お願い

- リフレクターが破損した場合は、直ちに新品と交換してください。(破損したままでの夜間走行はしないでください)
- リフレクターが汚れているときは、必ず汚れをふき取ってください。

警告

- 安全装置は取り外さない
(外したまま使用すると、事故発生によるけがのおそれ)

■品番および型式認定済 TS マーク(保険無し)

- この型式認定済 TS マークは、国家公安委員会の型式認定を取得した製品にだけ表示することができるもので、法令の基準に適合することを明らかにするものです。
- このマークには、交通傷害保険は付帯していません。保険付き TS マークについては 80 ページを参照ください。



お願い

- マークをはがしたり、傷つけたりしないでください。



■車体番号(刻印位置)

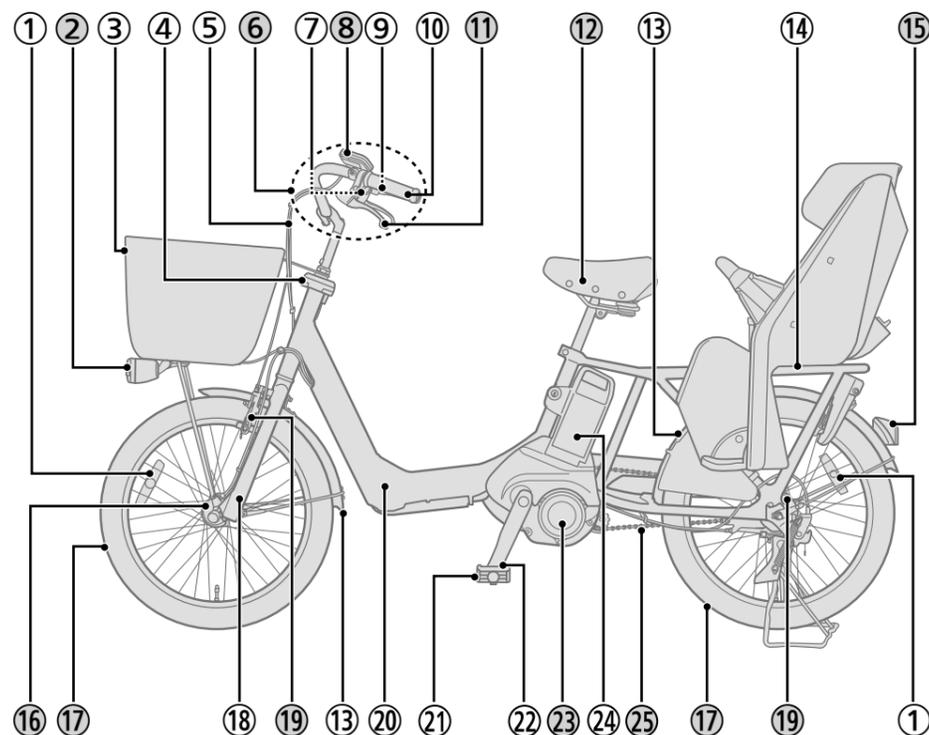
防犯登録に必要で、数字と英字で表示しています。

乗るまえの点検と調整

安全にご乗車いただくため、乗るまえに点検と調整を実施する習慣を付けましょう。

お願い

- 点検と調整は電源を切った状態で行ってください。
- 未組立、未調整および調整不良の自転車は使用しないでください。
- わからないときは、販売店にご相談ください。



点検箇所	点検内容
① スポークリフレクター〈前・後〉	<input type="checkbox"/> 割れやがたつきは無いかな？
② フロントリフレクター—体型 バッテリーライト	(☞ 38 ページ)
③ バスケット	<input type="checkbox"/> がたつきは無いかな？
④ 前車輪回転抑制機構	<input type="checkbox"/> スタンドを跳ね上げたとき、ハンドルがスムーズに回るかな？
⑤ ワイヤ類(ブレーキ・変速機など)	<input type="checkbox"/> たるみ・さび・断線や損傷が無いかな？
⑥ ハンドル部	(☞ 38 ページ)
⑦ ベル	<input type="checkbox"/> よく鳴るかな？ <input type="checkbox"/> 固定は確実かな？
⑧ 手元スイッチ	(☞ 39 ページ)
⑨ シフトグリップ	<input type="checkbox"/> スムーズに変速できるかな？

点検箇所	点検内容
⑩ グリップ〈左・右〉	<input type="checkbox"/> ひび割れは無いかな？ <input type="checkbox"/> 抜けは無いかな？ <input type="checkbox"/> 回らないかな？
⑪ ブレーキレバー〈左・右〉	(☞ 39 ページ)
⑫ サドル	(☞ 41 ページ)
⑬ どろよけ〈前・後〉	<input type="checkbox"/> がたつきや外れは無いかな？ <input type="checkbox"/> タイヤに当たっていないかな？ <input type="checkbox"/> 曲がりは無いかな？
⑭ リヤキャリア・チャイルドシート	<input type="checkbox"/> 固定は確実かな？ <input type="checkbox"/> 補助ベルトにたるみは無いかな？
⑮ リヤリフレクター	(☞ 41 ページ)
⑯ スピードセンサー	(☞ 42 ページ)
⑰ 車輪部〈前・後〉	(☞ 42 ページ)
⑱ フロントフォーク	<input type="checkbox"/> ひび割れや変形は無いかな？
⑲ ブレーキ〈前・後〉	(☞ 39 ページ)
⑳ フレーム	<input type="checkbox"/> ひび割れや変形は無いかな？ <input type="checkbox"/> ワイヤ類が巻きついていないかな？
㉑ ペダルリフレクター	<input type="checkbox"/> 割れやがたつき、汚れは無いかな？
㉒ ペダル・クランク	<input type="checkbox"/> がたつきは無いかな？ <input type="checkbox"/> ひび割れや曲がりは無いかな？
㉓ 駆動ユニット	(☞ 43 ページ)
㉔ バッテリー	残量表示ボタンを押したとき <input type="checkbox"/> 残量表示ランプが点灯するかな？(☞ 47 ページ) 外観を見て <input type="checkbox"/> ケースにひび割れや変形、ねじの緩みなどは無いかな？ <input type="checkbox"/> 端子部が汚れていないかな？ 車体に装着してみた <input type="checkbox"/> しっかりと車体にはまっているかな？(☞ 46 ページ)
㉕ チェーン	(☞ 43 ページ)

乗るまえの点検と調整(つづき)

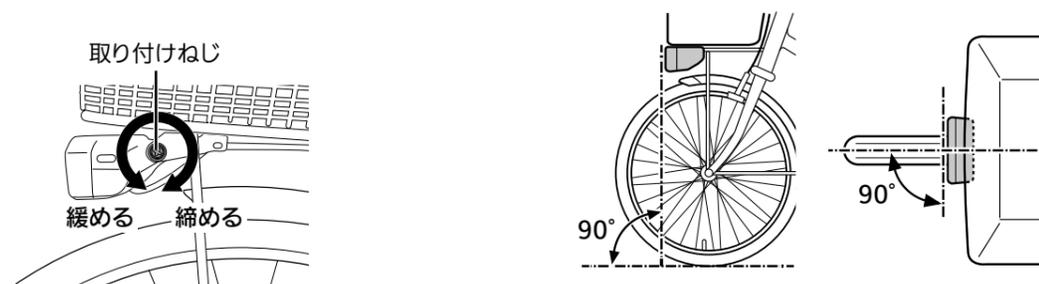
② フロントリフレクター一体型バッテリーライト(調整は販売店にご依頼ください)

- 点灯するか?
- 取り付け角度は適切か?
- 割れやがたつき、汚れは無いかな?
- コードにたるみ・断線・損傷は無いかな?
- 反射面が地面および前車輪に対して直角になっているか?



〈ライトの角度〉

フロントリフレクター反射面を地面に対して垂直になるように調整をすると、ライト照射角度も適正になります。



使用工具：スパナ(10 mm) またはボックスレンチ(10 mm)
締付トルク：(6～7) N・m{(60～70)kgf・cm}

お願い

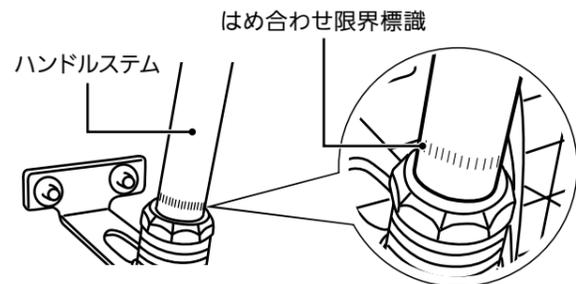
- 対向者(車)にまぶしくならない角度に調整してください。

お知らせ

- 内部のLEDは、基板直付けのため交換できません。

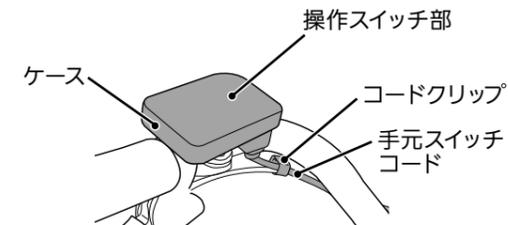
⑥ ハンドル部(調整は販売店にご依頼ください)

- ハンドルの固定は確実か?
- はめ合わせ限界標識が、見えていないか?
- ハンドルが前輪に対して直角か?
- ハンドルが左右方向に60度以上回転するか?



⑧ 手元スイッチ

- ケースや操作スイッチ部にひび割れなどが無いかな?
- スタンドを上げて、ハンドルを回転させたとき、手元スイッチコードが突っ張っていないかな?
- コードに断線や損傷は無いかな?
- コードクリップは外れていないかな?



電源を入れたとき

- 液晶表示部に「888」が表示されるか?(P.57ページ)
- ライトボタンを押して、ライトは点灯するか?

⑪ ブレーキレバー ⑱ ブレーキ(調整は販売店にご依頼ください)

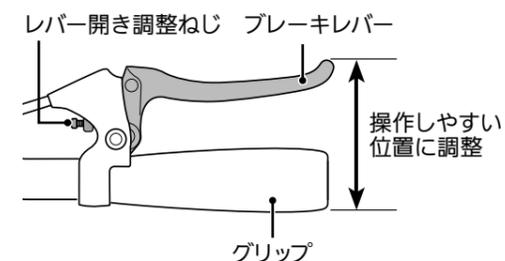
ブレーキレバー(左右)

- ブレーキの利きは良いかな?
- ブレーキワイヤのさびやほつれは無いかな?
- 左右ブレーキレバーの取り付け部を押して動いたりしないかな?

- 開き・引きしろは適正か?
 - 操作したときに動作は円滑か?
 - ブレーキの引きずり*は無いかな?
- *ブレーキの引きずりとは、ブレーキをかけていないのにブレーキがかかってしまう状態のことです。

〈ブレーキレバーの開き調整〉

- ① ブレーキレバーを開放した状態で、レバー開き調整ねじを回す
- ② 操作しやすい位置(ブレーキレバーを引く指の第一関節から第二関節がかかる位置が推奨)に調整する

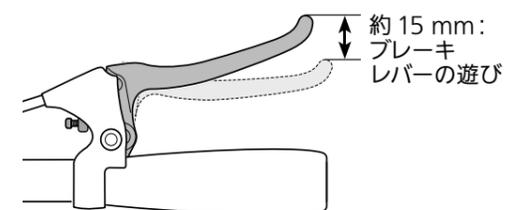


お願い

- ブレーキレバーを強く握って、レバーとグリップが付く場合は、遊びを少なくして再調整してください。

〈ブレーキレバーの引きしろ調整〉

ブレーキレバーの遊びが約15mmになるよう、前後ブレーキの引きしろをブレーキ調整ねじで調整する。



お願い

- 上記の調整範囲は目安です。調整後は必ずブレーキテストをしてください。
- 前後車輪の回転が重くないことを確認してください(電源を入れずに行ってください)。

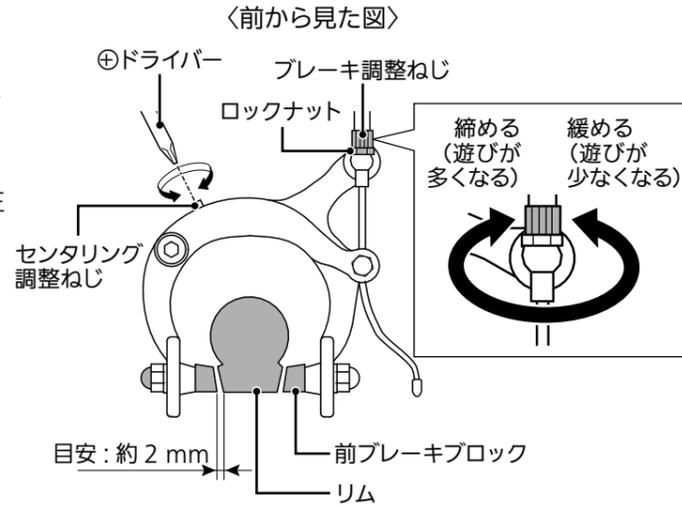
前ブレーキ(ブレーキブロック)

- すりへっていないかな?
- 異物は付いていないかな?
- 固定は確実か?
- タイヤに当たっていないかな?
- 横から見てリムと平行になっているかな?

乗るまえの点検と調整(つづき)

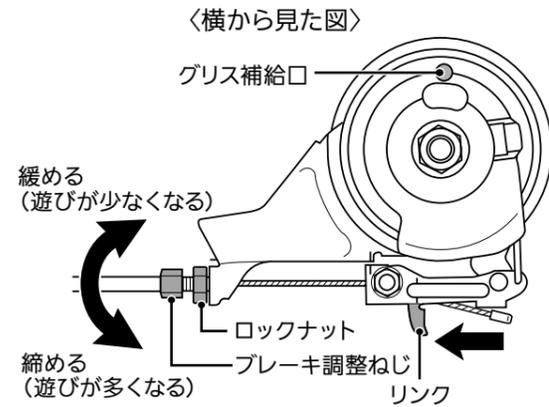
〈前ブレーキの調整〉

- ①ロックナットを緩める
- ②ブレーキ調整ねじを回す
- ③センタリング調整ねじで、リムと前ブレーキブロックの隙間が左右均等になるように調整する
- ④走行してブレーキの利きを確認する
- ⑤ブレーキ調整ねじが緩まないよう、ロックナットを適正締付トルクで締め付ける
締付トルク：(1～2) N・m{(10～20)kgf・cm}



〈後ブレーキの調整〉

- ①ブレーキ調整ねじのロックナットを緩める
- ②リンクを押しながら、ブレーキ調整ねじを回す
- ③走行してブレーキの利きを確認する
- ④ブレーキ調整ねじが緩まないよう、ロックナットを適正締付トルクで締め付ける
締付トルク：(1～2) N・m{(10～20)kgf・cm}



お願い

- 確実な制動力を得るために、通常 1～2 年に 1 回程度は販売店でローラーブレーキ専用グリス (当社品番：NBP002) を補給してください。
- ブレーキ調整が不適切な場合、ブレーキが利き過ぎたり、逆に利かなかったりすることがあります。また、使用によるなじみや摩耗で、ブレーキの利き具合が変わります。ブレーキが利きにくい場合は、販売店で点検を受けてください。

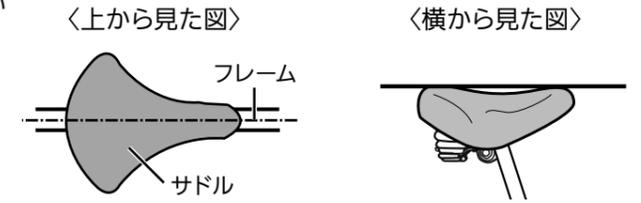
お知らせ

- 平成 25 年 12 月 1 日より、制動装置(ブレーキ) に不備のある自転車と認められる自転車が運転されているときは警察官が停止させ検査ができるようになりました。停止や検査を拒んだり、運転継続禁止命令に従わなかった場合は罰金が科せられる場合があります。

⑫ サドル

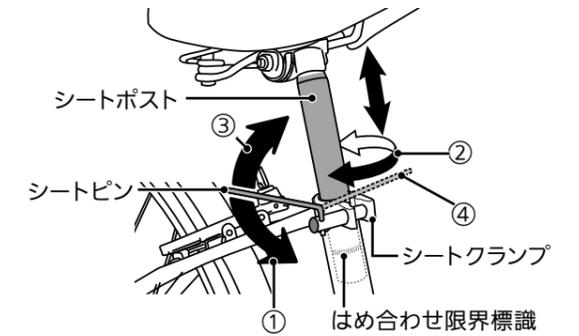
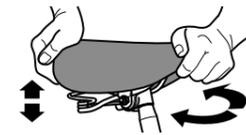
- 両足が地面に着くか?
- シートポストのはめ合わせ限界標識が、見えていないか?
- サドルの固定は確実か?
- サドルがフレームと平行になっているか?
- サドルの上面と地面が平行になっているか?

サドルの正しい方向と角度



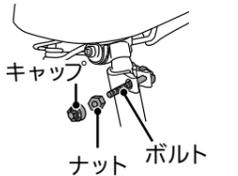
〈サドルの高さと向きの調整は〉

- ①シートピンを緩める
- ②サドルの高さと向きを調整する
- ③シートピンを締める
締付トルク：(8～12) N・m{(80～120)kgf・cm}
- ④シートピンを身体に当たらない位置に固定する
- ⑤がたつきやずれが無いことを確認する



お願い

- 上記のトルクでシートポストは十分固定されます。シートピンを締めすぎないでください(シートクランプが破損するおそれ)。
- サドルを最下部付近まで下げて使用するとき、および直付けサドル使用時は、シートピンが回転しにくいよう、同梱のナットに交換して組み付けてください。最後にキャップをかぶせてください。



お知らせ

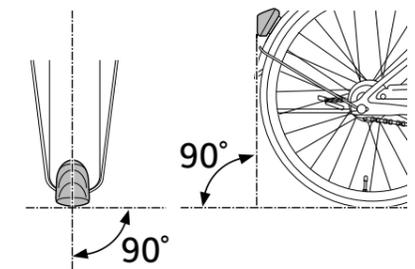
- サドルを標準仕様より低くしたいときは、オプションの直付けサドル(☞ 78 ページ) に交換されますとサドル高さを通常より約 3 cm～4 cm 下げることができます。

⑬ リヤリフレクター(ソーラーオートテール 2)

- 割れや、汚れは無いかな?
- 反射面の角度は適切かな?

〈お手入れについて〉

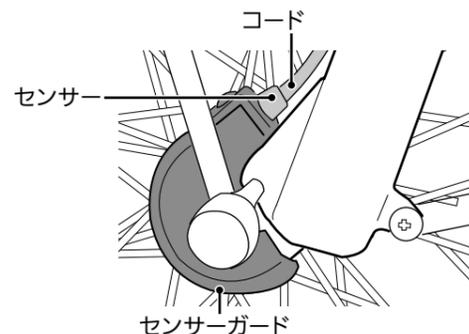
レンズに付いた汚れはこまめにふき取ってください。レンズの汚れがひどい場合は、水もしくは薄めた中性洗剤を浸み込ませた布でふき取ってください。



乗るまえの点検と調整(つづき)

⑩ スピードセンサー(調整は販売店にご依頼ください)

- センサーの固定は確実か?
- コードに断線や損傷は無いかな?
- コードはしっかり固定されているかな?
- 車輪を回転させたときに、異常は無いかな?



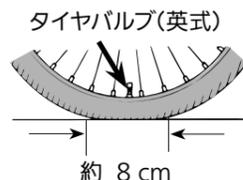
⑪ 車輪部<前・後>

- タイヤに摩耗・切傷は無いかな?
- 車輪の固定は確実かな?
- タイヤに異物は付いていないかな?
- スポークに曲がり・切れ・緩みは無いかな?
- 空気圧は適正かな?
- リムに振れ、変形は無いかな?
- リム(アルミリム)が摩耗し、リム交換マークが消えていないかな?



<タイヤの適正な空気圧>

自転車に乗った状態で接地部の長さが、約 8 cm 程度が、適正です。



お願い

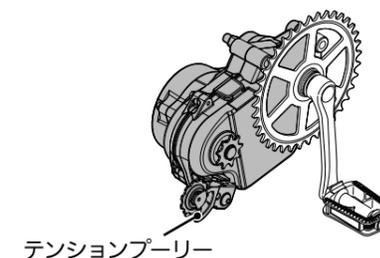
- タイヤ側面に刻印されている標準空気圧は 280 kPa {2.8 kgf/cm²} です。圧力計の付いたポンプで空気を入れる場合は、数値内になるように入れてください。圧力計の付いていないポンプで空気を入れる場合は、上図の接地部の長さを参考にしてください。
- 上記の空気圧は体重 65 kg 程度の方が乗車された場合の適正な空気圧です。常時、お子様を乗せて走行する場合は、通常より高い空気圧 300kPa {3.0 kgf/cm²} にて使用してください。
- タイヤの空気圧は標準空気圧未満では使用しないでください。タイヤのひび割れ、偏摩耗やパンクの原因になります。
- タイヤにガソリン・有機溶剤・油類が付着したときは、すぐにふき取ってください。
- リム交換マークが見えなくなったら新しいリムと交換してください。

お知らせ

- 長期間使用しない場合は、空気圧は自然に減ります。
- アルミリムの場合、ブレーキをかけることによりリム表面は摩耗します。

⑫ 駆動ユニット

- 駆動ユニットがフレームに対してがたついていないかな?
- テンションプーリーは円滑に動作するかな?



⑬ チェーン(調整は販売店にご依頼ください)

- 空回りしないかな?
- 小石などが挟まっていないかな?
- 歯飛びや異常な音(バリバリ音など)は無いかな?
- 油切れはしていないかな?
- たるみが大きくないかな?
- さびていないかな?
- チェーンケースに接触していないかな?

<チェーンのたるみについて>

走行中、チェーンの周りから異常な音がする場合は、チェーンが伸びているか、テンションプーリーが固着している可能性があります。販売店に点検・調整・交換をご依頼ください。

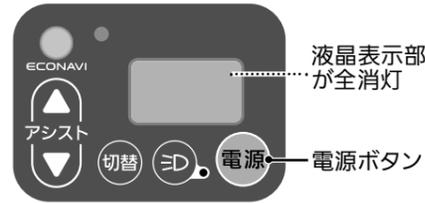
お願い

- この自転車は電動アシスト自転車用に耐久性を高めた強化チェーンを使用しています。チェーンを交換する際は、必ず刻印のある純正チェーン(右図)を使用してください。



充電しましょう

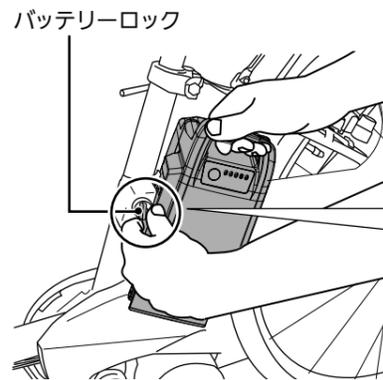
1. 電源ボタンを押して電源を切る



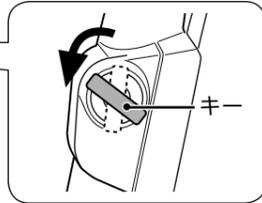
お知らせ

- 電源を切らないでバッテリーを外すと故障の原因になります。

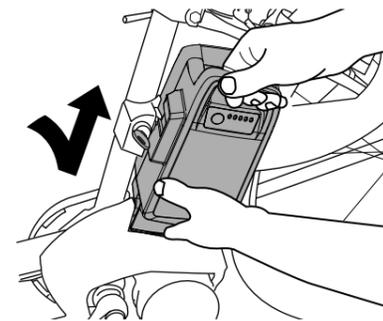
2. バッテリーロックを外し、バッテリーを取り外す



- ① バッテリーロックにキーを差す
- ② バッテリーを支えながら、キーを反時計方向に約 60 度回しロックを解除する
・キーは開錠状態のまま固定できます。



- ③ バッテリーを両手で支えながら、引き上げて外す
- ④ キーを時計回りに約 60 度戻してから、引き抜く



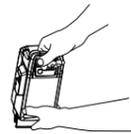
注意



■バッテリーを幼児の手の届く所に置かない*



■バッテリーを支えてからキーを回す*
■バッテリーは両手で扱う*

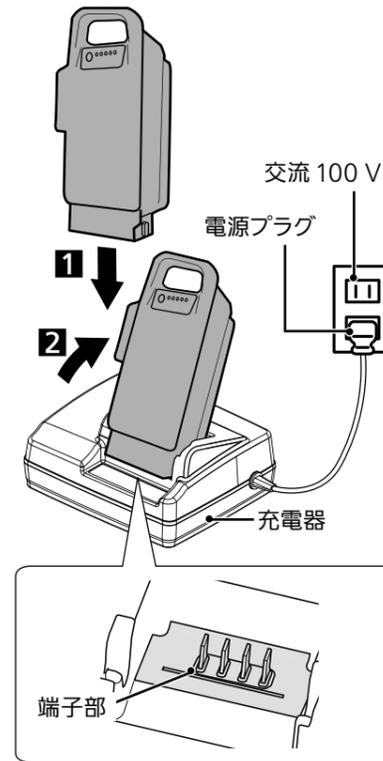


※(落下して、けがをするおそれ)

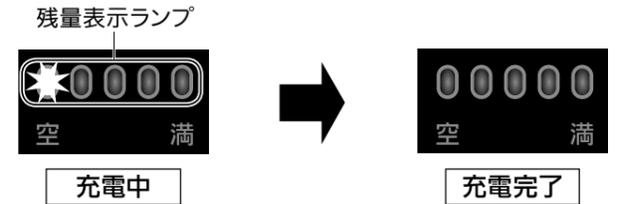
お願い

- バッテリーを取り外したあとは、キーを抜いて保管してください。

3. バッテリーを充電器にセットする



- ① 電源プラグをコンセント(交流 100 V) に差し込む
- ② バッテリーを上から入れ(1の方向)、奥に倒す(2の方向)
・バッテリーの残量表示ランプが点灯し、充電が始まります。充電が完了すると、残量表示ランプは消灯します。



※充電時間の目安は仕様(76 ページ)をご覧ください。

注意

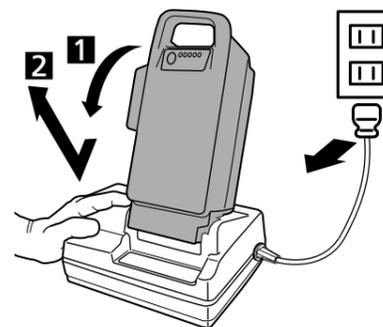


■寝ているそばでは充電しない
■充電中は長時間、充電器・バッテリーの同じ場所に触れない
(充電中は、40 °C ~ 60 °C になる場合があります、低温やけどのおそれ)

お知らせ

- 家庭用の交流 100 V 電源以外(車載用など) から充電すると、充電器が高温になったり、故障するおそれがあります。
- 充電器のプラグをコンセントに差し込むと、火花が発生する場合があります。回避方法としてスイッチ付電源タップをご使用になることをお勧めします。
- 走行直後などバッテリー内部の温度が上昇しているときは、充電できないことがあります。バッテリー内部の温度が規定温度まで下がれば、充電を開始します(周囲の温度により、充電開始までに 1 ~ 2 時間かかる場合があります)。
- バッテリー容量により、最後の残量表示ランプが全点灯から消灯に変わるまでの時間は異なります。

4. バッテリーを充電器から外す



- ① 充電器を手で押さえ、バッテリーを手前に倒して(1の方向)、取り外す(2の方向)
- ② コンセントから電源プラグを抜く

注意

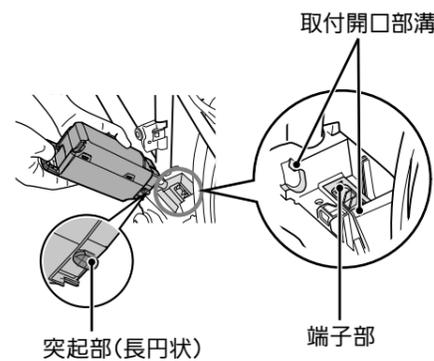


■充電器を手で押さえながらバッテリーを外す
(充電器が落下し、けが・破損のおそれ)

必ず守る

充電しましょう(つづき)

5. バッテリーを自転車に取り付ける



- ① バッテリーロックにキーが差し込まれている場合は、抜く
- ② バッテリーを残量表示ランプのある面を手前にして両手で持つ
- ③ バッテリーを手前に倒しながら、取付開口部の溝とバッテリーの突起部(長円状)を合わせる
- ④ バッテリーを起こして、しっかりと最後まで押し込む
- ⑤ 最後に必ず手前に引いて、外れないことを確認する

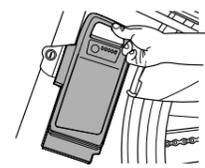


警告



必ず守る ■確実に自転車に装着されているか確認する

(走行中に脱落し転倒したり、足の上に落下したり、けがのおそれ)
⇒必ず手前に引いて外れないか確認してください。



注意

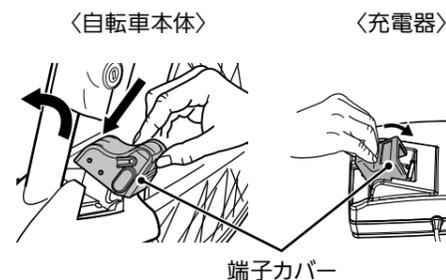


禁止 ■バッテリーとフレームの間に指を入れない
(指を挟み、けがをされるおそれ)

充電するときのポイント

お願い

- 初めて乗る場合や、1か月以上乗車していないときは、必ず充電してください(出荷時は、満充電していません)。
- 充電器は5℃～35℃の場所に設置してください。
- バッテリーの温度が0℃以下または充電する場所との温度差が大きい場合は、十分に充電できていない場合があります。その場所で1時間以上放置してから充電してください。
- 雨天走行後に充電するときは、水分をふき取ってから充電してください(充電器内に水が入って故障の原因になります)。
- 充電器は、必ず、外装箱から出して、ご使用ください(充電中の熱により、ケースなどが変形するおそれがあります)。
- 使用しなくても、半年に1回は充電してください(74ページ)。
- テレビ・ラジオなどのそばで充電した場合、雑音が入ったり、テレビの画面がちらついたりする場合があります。その場合は、電化製品から離して(コンセントを変えるなど)充電を行ってください。
- 自転車本体もしくは充電器の端子部にほこりがたまらないよう、ご注意ください。長時間バッテリーを取り外したままにするときは、それぞれの端子部に端子カバー(オプション 78ページ)をかぶせておくことをお勧めします。



お知らせ

- バッテリー保護のために、満充電からの再充電はできません。
- バッテリー温度が低い場合は、充電時間が長くなります。

■バッテリーの残量について

●走行まえに、バッテリーの残量と目的地までの距離をよく確認してください。

バッテリーの残量表示ボタンを押すと、残量表示ランプで残量をお知らせします(あくまでも目安としてご使用ください)。

バッテリー部 残量表示ランプの表示状況	バッテリー残量					目安	
	20	40	60	80	100 %		
LED ランプ 5 つとも点灯 残量表示ボタン 残量表示ランプ						81% ~ 100%	アシスト走行できます 満充電からスイッチの電源を入れて走行すると、1灯ずつ点灯数が減ります。
LED ランプ 4 つ点灯 						61% ~ 80%	
LED ランプ 3 つ点灯 						41% ~ 60%	
LED ランプ 2 つ点灯 						21% ~ 40%	
LED ランプ 1 つ点灯 						11% ~ 20%	
LED ランプ 1 つ点滅 						0% ~ 10%	充電時期のお知らせ そろそろ充電してください。アシスト力が徐々に低下する場合があります。
LED ランプ 1 つ点滅 						0%	

お知らせ

- バッテリーが新品のときや、長期間使用されていないとき、厳寒の日や急な坂を登ったときは、まれに残量表示ランプが点灯していても、アシスト力が働かないことがあります。このようなときは、再度充電してください。
- バッテリー残量が少ない状態で一定期間放置すると保護回路が働き、電源が入らなくなる場合があります。その場合はバッテリーを充電器にセットすると解除されます。

充電しましょう(つづき)

手元スイッチの液晶表示でも、残量が確認できます。

手元スイッチ 液晶表示部の表示状況	バッテリー残量					目安
	20	40	60	80	100 %	
アシストモード表示 オートマチック 90% オートマチック 100%	81% ~ 100%					アシスト走行できます バッテリー残量が、100パーセントから21パーセントの間は10パーセントずつ表示が減ります。
オートマチック 70% オートマチック 80%	61% ~ 80%					
オートマチック 50% オートマチック 60%	41% ~ 60%					
オートマチック 30% オートマチック 40%	21% ~ 40%					
オートマチック 11% ~ オートマチック 20%	11% ~ 20%					充電時期のお知らせ 20パーセントから5パーセントまでは1パーセントずつ表示が減ります。アシスト力が徐々に低下する場合があります。
オートマチック 5% ~ オートマチック 10%	5% ~ 10%					
ザンリョウナシ 0% 数値点滅 ザンリョウナシ表示：アシスト停止	0% ~ 4%					アシスト走行停止 充電してください。 充電しない場合はアシスト無しの自転車として走行できます。

お知らせ

- 残量が0パーセントから4パーセントまでは「0%」の点滅表示になります。
- 手元スイッチの液晶表示部は、残量が0(空)になると、アシストモード表示が「ザンリョウナシ」になります。

荷物やお子様を乗せるとき

■お子様を乗せて走行するまえに

幼児を乗せる場合は、リヤキャリア部分のチャイルドシートやハンドルに取り付けたチャイルドシートに乗せて走行するため、慣れるまでは、ハンドルがふらつき、不安定になる場合があります(特に、発進時、低速走行時、カーブや下り坂での走行時、幼児が動いたときなど)。また、ブレーキ操作時、制動距離が長くなります。

車が通らない平坦な場所(自転車乗り入れ可能な公園や広場など)で十分練習をしてください。

お願い

- チャイルドシートに幼児と同じ重さのもの(新聞や雑誌など)を積んで押し歩きや走行で練習し、重さに慣れてください。
- 次に幼児を乗せてゆっくり走行し、ハンドル操作を練習してください。
- 停車するときは、先に後ブレーキをかけながら、前ブレーキをかけ、必ず両足を地面に着けてください。
(バランスを崩しにくい押し歩きの方法)

押し歩き時には同乗幼児の動きや路面の凹凸・傾斜などによるバランスの崩れによって、自転車の立て直しができずに転倒することがあるので、幼児を自転車から降ろし、押し歩きをしてください。やむを得ず、幼児を乗せて押し歩きを行う場合には、転倒のリスクがありますので以下の事項を考慮して慎重に押し歩きを行ってください。

- a) 自転車は垂直より少し手前に傾けて、ハンドルをしっかり握り、ブレーキがすぐにかけるようにする。
- b) 同乗幼児が動かないように注意するとともに、路面の凹凸・傾斜などに注意して、バランスを崩さないようにする。
- c) 押し歩きのための十分なスペースがあることを確認し、混雑した場所ではバランスを崩しやすいので無理な進入は控える。

お知らせ

- 自転車に取り付けるチャイルドシートは、幼児2人同乗用自転車では前後に各1つだけに限ります。
- 16歳未満の方は、幼児を乗せて使用することは法令で禁止されています。
- 乗せることができる幼児の条件については、54ページを参照してください。
- チャイルドシートのクッションにプリントや染料を使用している異質の素材と長時間接触させると双方に色移りが生じることがあります。また、プラスチック製品、塩化ビニール製品、塗装された製品などと長時間接触させると材料成分の化学変化により表面が損傷する可能性があります。

■幼児2人を同乗させる場合

(ハンドル取付式チャイルドシート[前チャイルドシート]のご使用について)

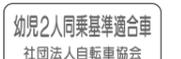
お願い

- 弊社指定のチャイルドシートを装着する場合、チャイルドシートの取扱説明書の指示に従ってください。
- ハンドル取付式チャイルドシートの組み付けは販売店にご相談ください。
- ハンドル取付式チャイルドシートに幼児を乗せた場合、前方の視界および下方の視界が低下するおそれがありますのでご注意ください。



お知らせ

- 弊社指定のハンドル取付式チャイルドシートを取り付けて、ハンドル部にも幼児を乗せることができます(☞54ページ)。
- この自転車は幼児2人同乗用自転車安全基準(BAA)の適合車です。幼児2人を乗せる場合は、弊社指定のチャイルドシートを装着してください(☞78ページ)。
- 弊社指定以外のチャイルドシートを装着すると、幼児2人同乗基準に適合しなくなります。



荷物やお子様を乗せるとき(つづき)

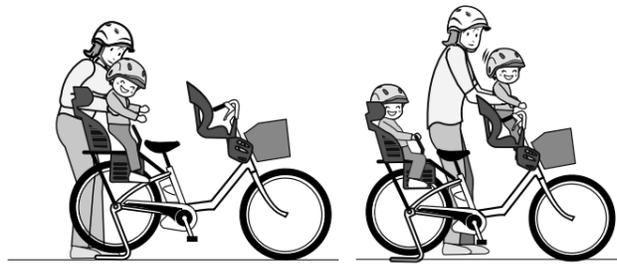
お子様の乗せかた



- 必ず守る**
- 荷物の積み下ろしや、幼児の乗せ降ろしをする際には、安全のためスタンロックが正常なロック位置にあることを確認する
(スタンドが跳ね上がり、転倒によるけがのおそれ)
 - 幼児を乗せてスタンドの操作をする場合は、十分練習してから使用する
(ふらつきや転倒によるけがのおそれ)

幼児を乗せ降ろしするときの注意点

- 必ず自転車を平坦で硬い路面に停車させてください。
- ハンドルの旋回が抑制されていることを確認してください。
- 自転車が倒れそうになってもすぐに手で支えられる位置に立ってください。もし倒れそうになった場合はすぐに手で支えてください。
- チャイルドシートに幼児を乗せているときは、自転車から離れないでください。



1. チャイルドシートの補助ベルトにたるみがないか確認する



お知らせ

- 補助ベルトは万が一リヤキャリアが破損してもチャイルドシートと幼児の転落を防止するためのベルトです。

お願い

- 補助ベルトが解除された状態では、乗車しないでください。
- 補助ベルトの寿命は約2年です。異常が無くても定期的に販売店にて交換をしてください(品番: NCD008B)。

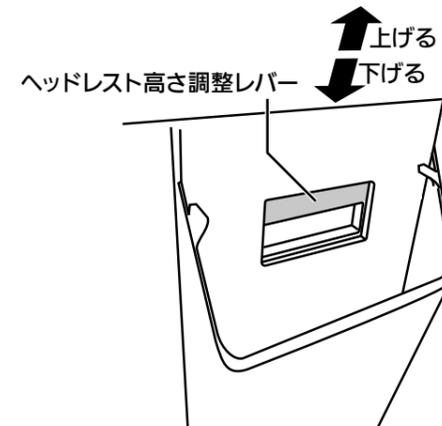
2. ハンドルの旋回が抑制されていること(33ページ)を確認し、幼児を乗せる

3. ステップの高さを確認する

お願い

- 必要に応じてステップの高さが調整できます。お子様の体格にあわせて調整してください。調整は販売店にご依頼ください。
- ステップの高さは3段階に選択できます。必ず左右のステップが同じ高さになるようにしてください。
- ステップは、ペダルよりも外側にあります。道路のポールなどに接触しないようにご注意ください。

4. ヘッドレストの高さを調整する



ヘッドレスト高さ調整レバーを握り、高さを調整する

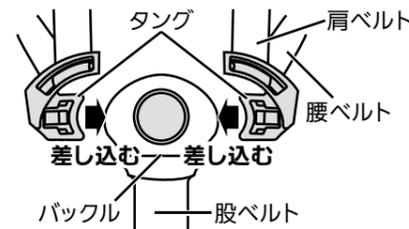
お願い

- お子様がチャイルドシートに着座したとき、ヘッドレストが、お子様の頭部の中心(耳の上)より高くなるように調整してください。



- 必ず守る**
- ヘッドレストの上下スライド時に、手や指の位置を確認する
(指を挟み、けがのおそれ)

5. シートベルトを締める



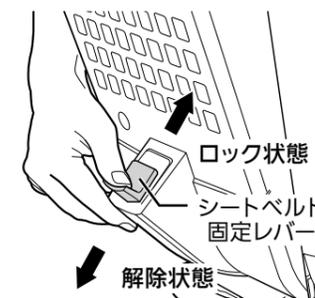
タングを、バックルに差し込む

外すとき



バックルの中心にあるボタンを押してタングを外す

6. シートベルトの長さの調節をする



縮めるとき

チャイルドシート背面のシートベルト固定レバーを後側(図の解除側)に押し、バネの力で縮む

伸ばすとき

チャイルドシート背面のシートベルト固定レバーを後側(図の解除側)に押し、シートベルトの固定を解除しながら、左右のシートベルトを手で引っ張って伸ばす

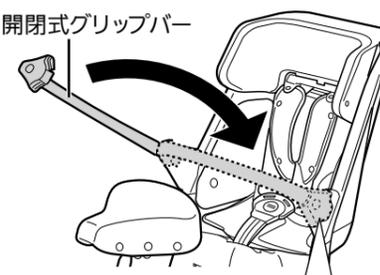


固定レバーから手を離すとバネでロック状態に戻ります。

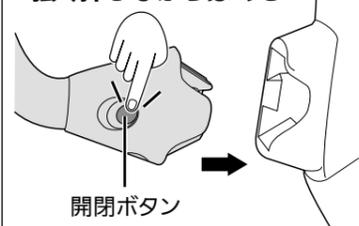
荷物やお子様を乗せるとき(つづき)

7. 開閉式グリップバーを閉める

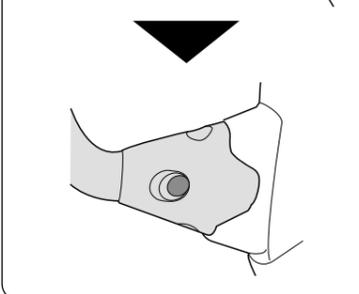
開閉式グリップバー



強く押しながらはめる



開閉ボタン



- ①グリップバーの開閉ボタンを強く押しながらはめる
- ②必ず手前に引いて、外れないことを確認する

お願い

- 開閉ボタンは二重構造になっていますので、強く奥まで押ししてください。



警告



必ず守る

- グリップバーが確実に固定されていることを確認する
(お子様が落下してけがをするおそれ)



注意

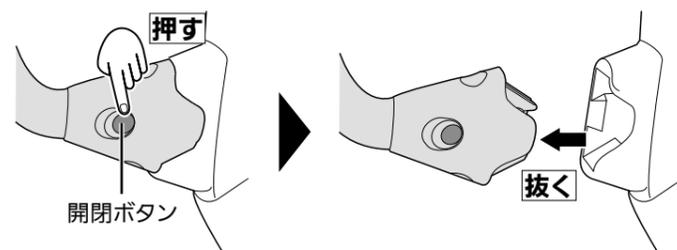


必ず守る

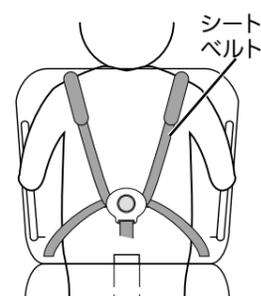
- グリップバーの開閉時に、手や指の位置を確認する
(指を挟み、けがのおそれ)

外すとき

開閉式グリップバーの開閉ボタンを押して、抜く



〈前から見た図〉



シートベルト

お願い

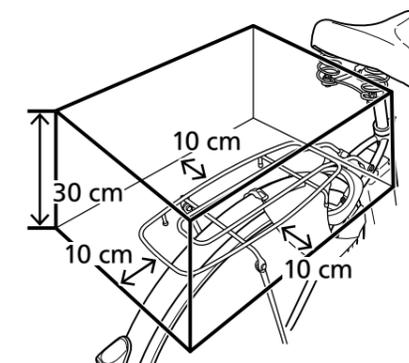
- 必ずシートベルト(肩ベルト、腰ベルト、股ベルト)が止まっているか確認してください。
- お子様の首に巻きついたり、身体を圧迫したりしないように留意してください。
- シートベルトが車輪に巻き込まれないように注意してください。
- 乗車中にお子様がおバックルを外さないように注意してください。
- 幼児を乗せないときでも、バックルはタンクに差し込んで座面から落ちないようにしてください。
- シートベルトの寿命は約2年です。異常が無くても販売店にて定期的に交換してください(品番: NCB285S)。

お知らせ

- SGマーク制度は、チャイルドシートの欠陥によって発生した人身事故に対する補償制度です。(新品で購入した日より3年間。自転車全体はSGマーク制度の賠償対象ではありません)
- お子様の適用範囲の記載および取扱説明書の記載を守らない場合には、SGマーク制度の賠償対象外になるおそれがあります。
- 6歳以上の児童を同乗させることは、道路交通法違反となり、違反の場合はSGマーク制度の賠償対象外となるおそれがあります。

積載条件

積載物の大きさ限度	
フロントバスケット	バスケットに、おさまる大きさ(前方が見やすい高さまで)
リヤキャリア (チャイルドシート取り外し)	幅 : リヤキャリアの幅プラス10 cm まで 長さ : リヤキャリアの長さプラス10 cm まで 高さ : リヤキャリアから30 cm まで



お願い

- 荷物の運搬には、バスケットおよびリヤキャリア以外は使用しないでください。
- 最大積載質量以上の荷物を積まないでください。劣化度合が大きくなり、場合によってはバスケット、リヤキャリア、フレームなどが破損するおそれがあります。

お知らせ

- 荷物の積載量が増えると、バッテリーの電力消費が増え、アシスト走行できる距離が短くなります。また、タイヤなどの消耗品の劣化が激しくなります。

荷物やお子様を乗せるとき(つづき)

さあ、乗りましょう!

●乗せることのできる幼児の条件

後チャイルドシート	前チャイルドシート
年齢:1歳(12か月)以上、6歳(72か月)未満 身長:115cm未満	年齢:1歳(12か月)以上、4歳(48か月)未満 身長:100cm未満

※乗車は2歳以上を推奨
●乗車定員:1名

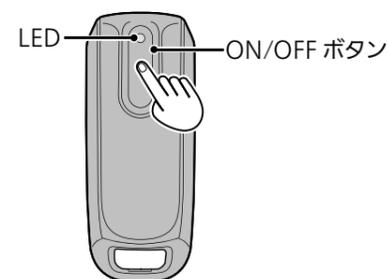


●最大積載質量

最大積載質量	幼児を同乗させる場合	荷物を載せる場合 (フロント・リヤバスケット使用)
前のみ使用 (必ず弊社指定のチャイルドシートを使用してください)	15 kg まで 前に乗せる幼児の体重 + 荷物 = 15 kg まで	3 kg まで 前に載せる荷物だけ = 3 kg まで
後のみ使用 (必ず弊社指定のチャイルドシートを使用してください)	体重 22 kg まで チャイルドシートを含まない幼児の体重だけ = 22 kg まで	27 kg まで(クラス表示 27) 積載装置(リヤバスケット) + 荷物 = 27 kg まで
前後使用 (自転車の最大積載質量は 30 kg までです)	2人前後合わせて体重合計 30 kg まで チャイルドシートを含まない幼児 2人の体重 + フロントバスケットに積載する荷物 3 kg まで = 30 kg まで	前後合わせて 30 kg まで 積載装置(リヤバスケット) + リヤバスケットに積載する荷物 + フロントバスケットに積載する荷物 3 kg まで = 30 kg まで

ラックシステムの場合

1. 電子キーの作動状態を確認する



① 電子キーの ON/OFF ボタンを軽く押して、作動可能状態であることを確認する。

お願い

● 作動可能状態でない場合は ON/OFF ボタンを長押しし、作動可能状態(LED が緑色 28 ページ) にしてください。

お知らせ

● 通常は作動可能状態のまま保持していただいてもかまいません。

2. 手元スイッチの電源ボタンを押し、後輪サークル錠を開錠する



① 後輪サークル錠を開錠する

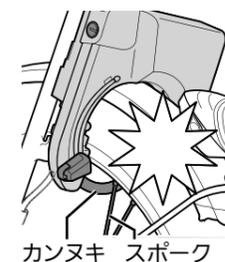
・電源ボタンを押すことで、電子キーと後輪サークル錠の相互認証をして開錠されます。

お願い

● 開錠できない場合は、72 ページをご確認ください。

お知らせ

- 手動でもキーを使って開錠することができます。
- スポークがカンヌキに当たり、開錠できない場合はアラーム音が鳴る場合があります。
- 相互認証できないと、アラーム音が鳴ります。



② 後輪サークル錠が開錠されているか確認する

注意



■ 開錠するとき、つまみに指を近づけない
(衝撃でけがをされるおそれ)

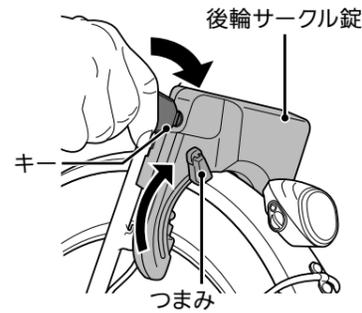
禁止

57 ページ「3. スタンドを上げ、ハンドルがスムーズに回ることを確認し、乗車する」へ

さあ、乗りましょう!(つづき)

手動キーの場合

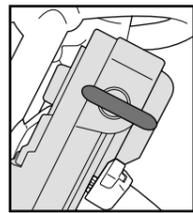
1. 後輪サークル錠を開錠する



- ① 後輪サークル錠にキーを差し込み、時計方向に回す
・つまみがスライドし、開錠します。

お願い

- 必ずスタンドを立てた状態で、開錠してください。
スポークと後輪サークル錠が接触すると、スポークが変形・破損するおそれがあります。



- ② 後輪サークル錠が開錠したことを確認してキーを抜く
・キーを左図の状態まで戻して抜いてください。

お願い

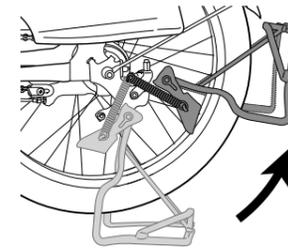
- キーをキー穴に挿したまま走行しないでください。挿したまま走行すると、キーがキー穴から抜け落ち、紛失のおそれがあります。開錠後は必ずキーをキー穴から抜いて、走行してください。

注意

- ⊘ 禁止 ■キーを回すとき、つまみに指を近づけない
(衝撃でけがをするおそれ)
- 手動で開錠したときは、キーを付けたまま乗車しない
(走行中、落下し、紛失するおそれ)

👉 57ページ「3. スタンドを上げ、ハンドルがスムーズに回ることを確認し、乗車する」へ

3. スタンドを上げ、ハンドルがスムーズに回ることを確認し、乗車する



- ① スタンドロックを解除し、スタンドを後方へ完全に跳ね上げる
・スタンドを上げることで、ハンドルの固定が自動的に解除されます。

4. ラクイックシステムの場合 手元スイッチの液晶表示部を確認する

(前回電源を OFF したときのアシストモードとバッテリー残量が表示されています)

手動キーの場合



ペダルを踏まずに電源を入れる

- ・電源が ON になり、液晶表示部に「888」が表示されています。電源が ON になってから、約 1 秒後にバッテリー残量表示(%)に切り替わります。

お願い

- 「888」表示の間は駆動ユニットの初期化をしているので、ペダルを踏まないでください。ペダルを踏みながら電源を入れると、ペダル入力小さい状態と誤検知され、走行時にアシスト力が弱くなります(故障ではありません)(P.70 ページ)。
- 電源ボタンを押しても手元スイッチの液晶表示部が点灯しないときは、バッテリーの充電や固定が確実にできているかを確認してください。
- 走行途中には電源を入れないでください。

お知らせ

- 電子キーを携帯していない場合、電源ボタンを押すとアラーム音が鳴りますが故障ではありません。
- 電源が入った状態で 10 分以上車両を放置すると、自動的に電源が切れます(オートオフシステム)。再度走行するときは、電源を入れてください。



乗りかた

乗りかた

さあ、乗りましょう!(つづき)

5. サドルに座り発進する



- ・ハンドルをしっかり握り、前後左右の安全を確認してから、発進してください。
- ・発進すると電動アシストシステムが働き、作動音がします。

警告



■けんけん乗り(けり乗り)しない

(転倒や接触事故によるけがのおそれ)
⇒ペダルを強く踏めば、モーターがそれに
応じて強いアシスト力を出すため、
乗り込む際に自転車が飛び出し、危険
です。必ずサドルにまたがって、発進し
てください。



- けんけん乗り(けり乗り)とは、片足でペダルをこぎながら助走し、反動を付けてサドルにまたがる乗りかたです。

注意



■バッテリーロックにキーを付けたまま走行しない

(足に当たってけがをするおそれ)

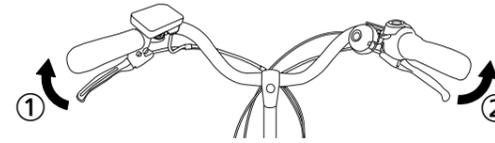
お願い

- 慣れるまでは、踏み始めおよび坂道を上がり終えた直後のアシスト力に注意してください。
- 土踏まずやかかとでペダルをこがないでください。
- 停車中は、前後ブレーキをかけた状態にし、ペダルに足を乗せないでください。
- 走行中に異常な音がした場合は、乗車を中止し販売店へ相談してください。

お知らせ

- 走行中は、ラジオなどに雑音が入る場合があります。
- ペダルに足を乗せた状態での停車時に振動を感じる場合がありますが、駆動ユニット固有の特性によるもので、故障ではありません。
- スピードメーターなどのワイヤレス式の機器を使用すると、誤表示となる場合があります。

ブレーキのかけかた



- ① 先に、左手のブレーキ(後ブレーキ)をかけてから
- ② 右手のブレーキ(前ブレーキ)をかける

警告



- 雨天時や下り坂ではスピードを出さない
(制動距離が長くなったり、スリップしやすくなったりするため、
衝突や転倒によるけがのおそれ)
- 前ブレーキだけを強くかけない
(車輪がロックし、自転車が前方に転倒し、けがのおそれ)

お願い

- 急ブレーキをかけなくても良いように、いつも前方に注意してください。
- 下り坂の手前では、ブレーキテストを行ってください。
- 下り坂のときは、適時ブレーキをかけながら速度が出すぎないように走行してください。
- 急な坂道のときは、降りて押ししてください。

変速のしかた

- ハンドルの外側に回すと…

3→2→1



- ハンドルの内側に回すと…

1→2→3

- ① 足を止めるか踏む力を抜いて、シフトグリップを1段ずつゆっくり回す

・位置決め軽い手ごたえがあるまで回してください。

変速位置	ペダルの回転が
①	軽くなる
②	↑ ↓
③	

お願い

- 変速操作は、よく練習してください。
- シフトグリップを無理に回す変速はしないでください。また、変速するときは、足を止めるか踏む力を抜いてください(変速機を傷める原因になります)。

さあ、乗りましょう!(つづき)

●変速機の上手な使いかた

平地
を走るとき...



シフトを**2**(または**3**)の位置に合わせる
発進するときは、**1**に合わせると楽です。

上り坂
のとき...



上り坂の手前で...
シフトを**2**(または**1**)の位置に合わせる
きつい上り坂のときは、**1**に合わせると楽です。

下り坂
のとき...



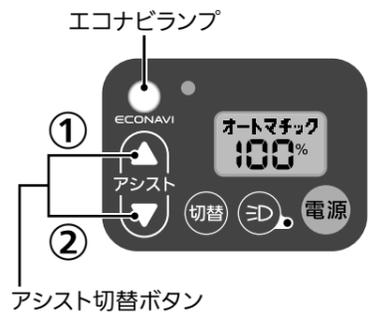
下り坂の手前で...
シフトを**3**の位置に合わせる

お願い

- 上記は推奨変速位置です。標準的な変速位置を示していますが、自分の体調や脚力に合わせて、適切な変速位置をお選びください。
- 楽な走行をするには...
 - 軽めの変速位置を選んでください(特に発進と上り坂)。
 - 変速機やアシストモードは、坂や風の状態、体調などによって、最適の位置を選んでください。
 - タイヤの空気圧はいつも適切にしてください(42 ページ)。

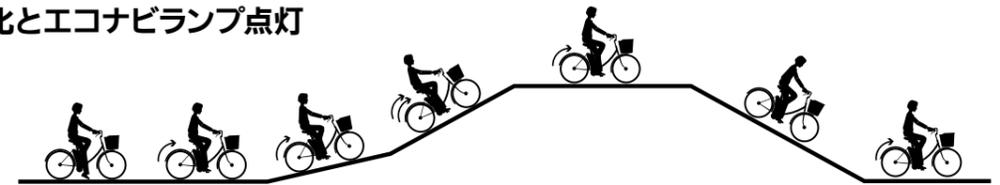
アシストの強さを変える

手元スイッチに電源が入った状態で、アシスト切替ボタンを押すと、アシストモードの切替ができます。



アシストモード	
「 パワー 」.....	常にパワフルなアシスト力で、坂道や重い荷物を積んでいるときでも快適な走行ができます。
① ↑ ↓ ②	
「 オートマチック 」.....	走行条件により、アシスト力を自動的にコントロールします。
① ↑ ↓ ②	
「 ロング 」.....	走行条件により、アシスト力を自動的にコントロールし、さらにアシスト力を抑え、1回の充電で長距離走行が可能です。

●アシスト力の変化とエコナビランプ点灯



モード設定/走行条件	スタート	平地	上り坂	急な上り坂	平地	下り坂	平地
『 パワー 』	強 ○	強 ○	強 ○	強 ○	強 ○	アシストOFF ○	強 ○
『 オートマチック 』	強 ○	中 ●	強 ○	強 ○	中 ●	アシストOFF ●	中 ●
『 ロング 』	中 ●	弱 ●	中 ●	中 ●	弱 ●	アシストOFF ●	弱 ●

エコナビ点灯 ● エコナビ消灯 ○

お知らせ

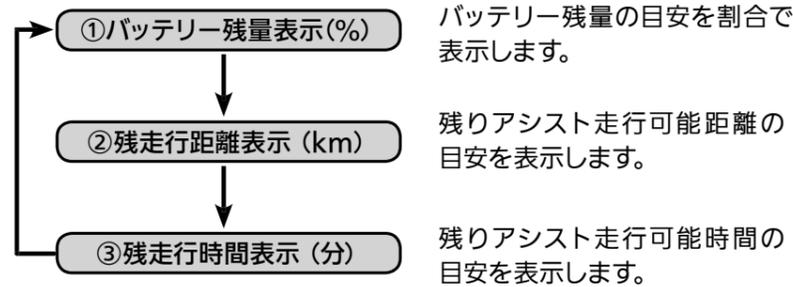
- 「オートマチック」「ロング」モード選択時には、エコナビランプが点灯してエコ運転(省エネ) 走行をお知らせします。
- 坂道や重い荷物を載せて走行するときは、アシスト切替ボタンを押し、「パワー」にしてください。
- 電源を入れたときは、前回電源をOFFしたときのモードで起動します(オートメモリー機能)。
- アシスト切替ボタンを何度か押すことで、アシストモードを一巡することはできません。

さあ、乗りましょう!(つづき)

あとどれくらい走れるかを見る

手元スイッチに電源が入った状態で、液晶表示切替ボタンを押すと、「バッテリー残量表示」→「残走行距離表示」→「残走行時間表示」の順で、データを表示できます。

●液晶表示部の表示例



表示項目	表示例	表示例の説明
①バッテリー残量表示(%)		バッテリー残量が、100パーセント満充電状態です。
②残走行距離表示(km) (残りアシスト走行可能距離)		残り30 kmアシスト走行可能です。 ※選択するアシストモードや実際の走行状況によって変わります。
③残走行時間表示(分) (残りアシスト走行可能時間)		残り128分アシスト走行可能です。 ※選択するアシストモードや実際の走行状況によって変わります。

上記内容は表示例であり、実際の表示とは異なる場合があります。

●1 満充電当たりの走行距離を確認したい場合

- ① バッテリーを満充電にして自転車に装着してください。
- ② 液晶表示切替ボタンで残走行距離表示にして、走行距離を確認してください。表示値は目安としてご使用ください。実際の走行状況により、63ページの測定値とは異なります。

お知らせ

- 電源を入れたときは、「バッテリー残量表示」から表示します。
- 残走行距離表示や残走行時間表示は目安となる数字です。実際の走行状況により異なる場合があります。
- 満充電時の残走行距離表示、残走行時間表示は、バッテリーの劣化状態(バッテリーは充放電を繰り返すと徐々に能力が低下し、走行できる距離が短くなります)により、最大値が小さくなります。

走行できる距離の目安

●1回の充電で走行できる距離の目安は下表のとおりです。

走りかた	走行条件		走行距離(km)						
			10	20	30	40	50	60	70
標準パターン (業界統一テスト条件) 	標準パターン(4 km) ①は、平坦路 1 km、 変速 Ⅲ、15 km/h ②は、4 度坂 1 km、 変速 Ⅱ、10 km/h ③は、平坦路 1 km、 変速 Ⅲ、15 km/h ④は、4 度坂 1 km、 変速 Ⅲ、20 km/h ●印は 10 秒間の停止を表す	パワー	50 km						
		オートマチック	60 km						
		ロング	80 km						
		4度登坂連続パターン	19 km						
4度登坂連続パターン 	4度坂、変速 Ⅱ、10 km/h	オートマチック	21 km						
		ロング	25 km						
		パワー	19 km						

●測定方法 一般社団法人自転車協会が定める、『電動アシスト自転車の走行距離の測定方法に関する基準(2010年4月1日施行)』に基づき測定

※一般社団法人自転車協会が定める、『電動アシスト自転車の走行距離の測定方法に関する基準』に準拠したテスト条件。

さあ、乗りましょう!(つづき)

先に記載している、1 満充電当たりの走行距離の測定条件は、以下のとおりです(業界統一テスト条件)。

- 1) 環境温度は 20 ± 5 °C、無風の状態
- 2) バッテリーは新品を用い、バッテリーライトは消灯状態
- 3) 車載重量(乗員と荷物の合計)は 65 kg
- 4) 路面は乾燥した平滑な路面
- 5) タイヤ空気圧はタイヤ側面に刻印されている標準空気圧
- 6) シャーシダイナモ(室内計測機)による計測

- 各アシストモードの詳細については、61 ページをご覧ください。
- 走行距離は、バッテリーの劣化度合や、発進停止・徐行後の加速・登坂路走行の頻度により短くなります。また、冬期など気温が低いときにも短くなります。

●走行距離が短くなる環境 / 使いかた

 冬期、寒いとき※1	 坂道が多いとき	 向かい風が強いとき※2 や 走行速度が速いとき	 ペダルが重くなる走りかた (例: 重い変速位置 [ギヤ] で 走行) 急加速をしたとき
 乗員体重、積載質量(荷物)が 重いとき※3	 発進、停止、加減速の 回数が多いとき	 路面の状態が悪い (凸凹道) とき	 タイヤの空気圧が 低下しているとき

※1 冬期(寒い環境 約 5 °C 以下) では、バッテリーの性能が低下し、走行距離が大幅に短くなることがあります。
⇒バッテリーを暖かい室内で保管し、使用するときだけ自転車に装着することで、性能低下を軽減することができます。

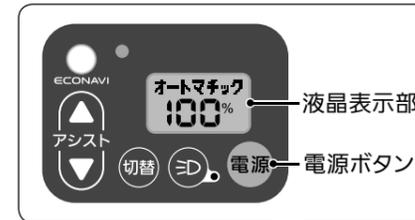
※2 風速 2 m/s の向かい風中を走行した場合、約 40 パーセント、走行距離が短くなります。

※3 積載質量(乗員体重)が 10 kg 増えた場合、約 10 パーセント、走行距離が短くなります。

- バッテリーは消耗品です。使いかたによっては 3 年程度で容量が半分以下になる場合があります。1 回の満充電で走行できる距離が著しく短くなったり、走行できなくなったときはバッテリーの寿命ですので交換が必要となります。
- バッテリーは使用しなくても少しずつ自然放電し、目安の走行距離まで走れないことがあります。
⇒乗車まえにバッテリーの残量確認を心掛けてください。
- そのほかにも、走行距離は、気象条件、路面の状況、自転車の整備具合、自転車の乗りかたなどにより、大幅に短くなることがあります。
- 次のようなときはアシスト力は働きません。
 - ・速度が 24 km/h 以上のとき。
 - ・ペダルを踏む力が弱いとき、または、ペダルの回転を止めているとき。

駐輪・施錠のしかた

1. 自転車から降りるまえに、手元スイッチの電源を切る



- ① 手元スイッチの電源ボタンを押す
・液晶表示部が消灯し、電源が OFF になります。

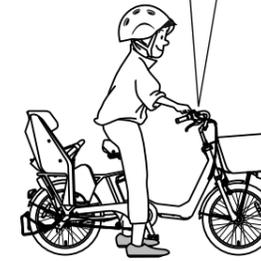
お知らせ

- バッテリーライト点灯時、電源を切ると、ライトは消灯します。

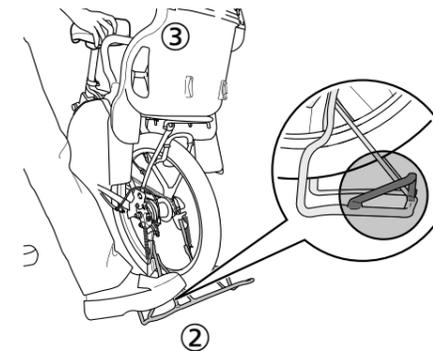
注意



■走行直後は、ブレーキ部に手を触れない
(ブレーキ部が高温になり、やけどの原因)



2. 駐輪する

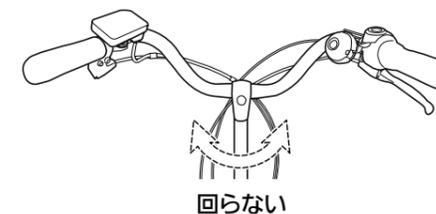


- ① ブレーキレバーを握ったままサドルから降りる
- ② 左手でハンドルを持ち自転車を固定する。スタンド ● の位置を足で踏む
- ③ 右手でサドルを引っ張り、スタンドを立てる
・スタンドロックが自動的にかかります。

お願い

- スタンドを立てた状態で、無理な力を加えないでください。
(サドルを持って自転車を持ち上げたり引きずったり、重いものを乗せたりしないでください)
- スタンドを立てた状態で、無理なハンドル操作を行わないでください。前車輪旋回抑制機構が壊れる原因になります。
- 転倒等によりスタンドが変形した場合、オートロック機構が作動しない場合があります。スタンドを立てたときにロックが働いているか確認してください。

3. ハンドルの状態を確認する



- ① スタンドのロックがかかり、ハンドルが容易に回らないことを確認する

4. 後輪サークル錠を施錠する



① 後輪サークル錠のつまみを押し込みながら、下へ止まるまで回す

お願い

- 必ず車輪の回転が止まってから、後輪サークル錠を施錠してください。スポークと後輪サークル錠が接触すると、変形・破損するおそれがあります。
- 駐車場など、決められた場所に駐輪してください。

駐輪場をご使用になるときは

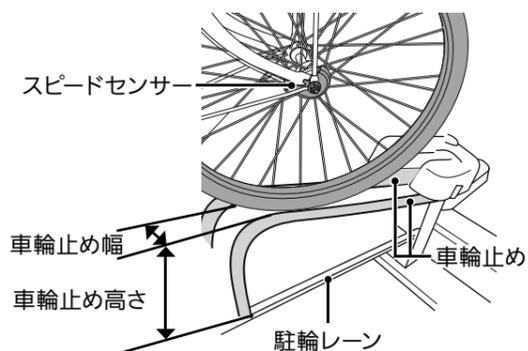
駐輪時、駐輪レーン上の車輪止め幅や高さにより、駐輪設備に適應しない場合があります。

駐輪場にてご確認の上、ご使用ください。

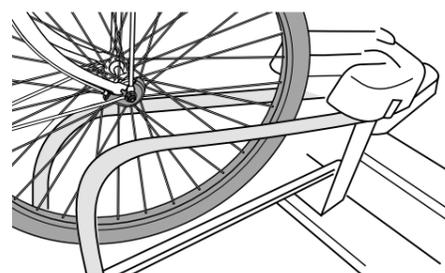
●車輪止め幅と高さの確認

タイヤの幅	約 5 cm
スピードセンサー下端までの高さ	約 22 cm

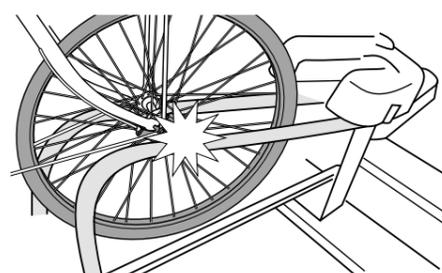
- 自転車に装着されているタイヤの幅が太く、駐輪レーンにおさまらない場合がありますので、事前に駐輪レーンの車輪止め幅をご確認ください(空気圧などによっても差が出ますので、あくまで目安としてご理解ください)。
- 自転車を左右および斜めに倒しても、車輪止めにスピードセンサーが接触しないことを事前に確認してください。接触する場合は駐輪レーン付駐輪場のご利用はお控えください。スピードセンサーが変形したり破損するおそれがあります。



※上記レーンのイラストは一例です。



〈○ スピードセンサーが接触していない〉



〈× スピードセンサーが接触している〉

●スピードセンサーが変形・破損した場合

スピードセンサーが割れている、フロントフォークと接触・変形・破損などしている場合は、お買い上げの販売店へご相談ください(破損したまま走行すると、手元スイッチにエラー表示が点灯する場合があります)。

■日常のお手入れ

- 乾いた布やブラシで、泥や土、ほこりを落としてください。
- 水をかけながらの洗車は、しないでください。
- がんこな汚れには、台所用洗剤(中性)を薄めてご使用ください。



■次のような場所では、

〈湿気の多い場所・海岸沿い・工場地域・エアコンの室外機のそば・自動車の排気ガスのかかる所・鉄道の線路際など〉

- さびやすいので、お手入れの回数を、多くしてください。

■ステンレス部品

- ステンレスはさびにくい金属ですが、使用条件や環境によってさびることがあります。下記の点にご注意の上ご使用ください。

○ステンレスに付着した鉄粉などがさびることによって「もらいさび」が発生しますので、お手入れを頻繁に行ってください(例：鉄道や鉄工所の近辺での保管車、後車輪周りのステンレス部品など)。

○ステンレスは塩素にも弱く、さびることがあります。塩分や塩素系の洗浄剤が付着したときは、乾いたあとでもさびが発生しますので、水を含んだ布などでしっかりふき取ってください。

お願い

- 本自転車は生活防水性能を備えていますが、駆動ユニットやバッテリー、手元スイッチ、バッテリーライト、ラックシステム(後輪サークル錠)などの電装部品や回転部(前後ハブ、ヘッド部など)には直接圧力がかかるような洗車や、水をかけながらの洗車はしないでください。水が入った場合、故障の原因となるおそれがあります。万一、駆動ユニット、バッテリーなどが水につかった場合は、直ちに使用を中止して販売店にご相談ください。
- 長期間ご使用になった場合、車体側接続端子の表面に汚れや酸化物が付着し、バッテリー端子との滑りが悪くなり、バッテリーの取り外しが固くなる場合があります。バッテリーの取り外しが固くなったときは、乾いた布で車体側接続端子の汚れや酸化物をふき取ってください。このとき、金属製のものは使用しないでください。ショートして感電・火災のおそれがあります。ふき取っても汚れが取れないときは、販売店に依頼し、車体側接続端子を交換してください。
- バッテリーケースの汚れは、水を含んだ布などでふき取ってください。
- シンナー・ベンジンなどの有機溶剤、ガソリンなどの石油類薬品、酸性・アルカリ性の洗剤などは使用しないでください(塗装がはげたり、樹脂製部品が浸食されたりします)。
- サドルには、ワックスをかけないでください(座ったとき衣服が汚れたり、滑ったりします)。
- 雨天走行後は、リム側面のブレーキブロック接触面の砂や泥をふき取ってください(黒く変色するのを防ぎます)。

注油について

注油場所と注油禁止場所

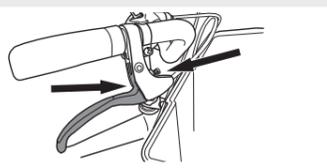
 このマークは、注油場所を示します。

 このマークは、注油禁止場所を示します。

お願い

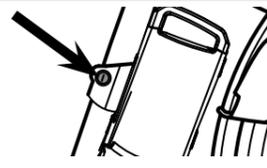
- 油の種類は、必ず、自転車用油を使用してください。(食用油などは、硬化するおそれがあります)
- 余分な油は、乾いた布でふき取ってください。

 ブレーキレバー<左・右>



レバーの可動部とワイヤの固定部に注油
(ワイヤがさびて、切れやすくなるのを防ぎます)

 バッテリーロック



キー穴に注油
(さびによる動作不具合を防ぎます)

 チェーン

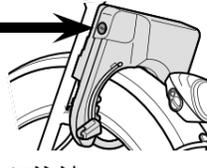


クランクを回しながら注油(チェーン・ギヤのさびつき、摩耗を防ぎます)
余分な油はふき取る(油汚れやほこりの付着を防ぎます)

 前ブレーキ
(ブレーキブロック)

 シートポスト

 後輪サークル錠



キー穴に注油
(さびによる動作不具合を防ぎます)

 後ブレーキ

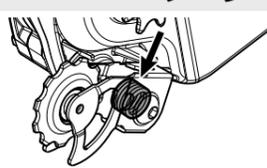
- メンテナンスをする場合は専用グリスを使用してください(当社品番: NBP002)。

 リム<前・後>

 チェーンケース

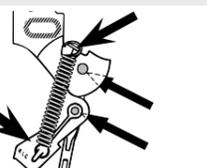
油が付いたときは、すぐにふき取る
(変色や塗装がはがれる原因となります)

 テンションプーリー



テンションプーリーのバネ部に注油

 スタンド



可動部、スタンドロック裏側の2本のカシメ部分、バネ引っ掛け部にグリスや潤滑油を塗布

 タイヤ<前・後>

油が付いたときは、すぐにふき取る
(ひび割れなどの原因になります)

 スピードセンサー

運搬／保管／廃棄について

運搬

 **警告**

 **■自転車を運搬するときはバッテリーを外す**
(自動車への積載時など、運搬の際に不意にペダルが押された場合にセンサーが感知し、車輪が回転し、巻き込まれてけがをするおそれ)
必ず守る

 **注意**

 **■サドルを持ち上げて移動させない**
(サドルが破損し、けがをするおそれ)
禁止

お知らせ

●リチウムイオンバッテリーは危険物であるため、基本的には公共交通機関への持込や飛行機や船での輸送は禁止されています。ただし、輸送・公共交通事業者によっては、制限を設けた上で、輸送(輸行)可能な場合があるため、事前に利用しようとする事業者にお問い合わせください。

保管

■保管場所(下記の場所に保管してください)

- 安定の良い所
- 風通しが良く、湿気の少ない所
- 雨つゆや直射日光が当たりにくい所

 **注意**

 **■台風など雨風が強い屋外で自転車を横倒しにして保管しない**
(モーターやバッテリー内部に水が浸入し、異常動作によりけがの原因)
禁止

お知らせ

- バッテリーのケースや樹脂カバー類で白色や淡い色の物は、長期間の使用により変色や色あせが生じます。それを緩和するため、日の当たらない所での保管や「サイクルカバー(☞78ページ)」の使用をお勧めします。
- チャイルドシートは雨ざらしにせず、屋根のある所で保管するか、オプションの「サイクルカバー(☞78ページ)」の使用をお勧めします。

■タイヤの管理

- 空気を適正空気圧まで入れてください(☞42ページ)。

■長期間保管する場合

- ごみやほこりが付くのを防ぐため、「サイクルカバー(☞78ページ)」の使用をお勧めします。
- 長期間、バッテリーを取り外したままにするときは、汚れやほこりが付かないように、「端子カバー(☞78ページ)」を装着することをお勧めします。(端子カバーを装着したまま走行しないでください。落下して破損するおそれがあります)

■バッテリーの保管

- バッテリーの保管については74ページをご覧ください。

廃棄

- 自転車・充電器を廃棄するときは、お住まいの地域のルールに従ってください。
- 使用済みの充電式バッテリーは、お早めに販売店にお持ちいただきリサイクル協力店にご相談ください(資源有効利用促進法に基づき、貴重な資源を守りましょう)。

必要なとき

必要なとき

故障かな？

まず、次の表に従ってお調べいただき、直らないときは、お求めの販売店に修理をご依頼ください。

症状	対処方法	ページ
ペダルが重い・アシストしない	● 手元スイッチの液晶表示部が点灯しない	46
	● バッテリーの残量表示ランプが点灯しない	44
	● 手元スイッチの液晶表示部が速い点滅をしたり、点灯しない	44
	● 補助(アシスト) が切れたり入ったりする	—
	● 補助(アシスト) が弱い	57
補助(アシスト) しない	● 停止して 10 分以上たっていませんか？ (オートオフシステム) ⇒ 電源ボタンを押して、電源を入れ直してください。	57
	● 液晶表示部に「アシストナシ」と表示されていませんか？ (手動でバッテリーライトを点灯させている場合) ⇒ 電源ボタンを押して、電源を入れてください。	31
	● バッテリーが充電器に正しく挿入されていますか？ ⇒ バッテリーを充電器に正しく挿入してください。	45
充電できない	● 充電器のバッテリー挿入部が汚れていませんか？ ⇒ 汚れを取り除いてください。	—
	● 走行直後ではありませんか？ ⇒ 走行直後はバッテリーの温度が上昇し、充電できない場合があります。温度が下がるまでお待ちください。	—
	● バッテリーの残量表示ボタンを押して確認してください。 ○ ランプが 5 つ点灯のとき ⇒ 満充電のため、再充電はできません。1 度使用してから、充電してください。	—
	● 1・3・5 番目のランプが同時に点滅のとき ⇒ 高温・低温による充電停止です。温度が常温に戻るまでお待ちください。	—
	● ランプが空 ⇒ 満(左 ⇒ 右) に 1 個ずつ流れるように点滅のとき ⇒ バッテリーの故障が考えられますので販売店にご相談ください。	—

症状	対処方法	ページ
走行距離が短い	● 充電ができていますか？ ⇒ バッテリーを充電してください。	44
	● 長期間使用せずに、放置されていませんか？ ⇒ バッテリーを充電してください。	44
	● 初めて使用するバッテリーではないですか？ ⇒ バッテリーを充電してください。	63
	● 道路条件や変速位置、64 ページに記載しているような走行により、走行距離が、短くなります。	64
	● 冬期は、バッテリーの特性で性能の低下が大きくなります。	42
手元スイッチの液晶表示部が短い走行で点滅を始める	● タイヤの空気圧が低下していませんか？ ⇒ 自転車用ポンプを使って空気を入れてください。	39
	● ブレーキの調整は正しくできていますか？ ⇒ ブレーキの調整を販売店に依頼してください。	74
	● 繰り返しの充電や長時間の使用でバッテリーは劣化(性能低下) します。 ⇒ 1 回の充電で走行できる距離が著しく短くなった場合(新品時の約 50 パーセント以下) は、新しいバッテリーに交換してください。	74
● バッテリーの残量表示ボタンを押すと、残量表示のあと、ランプが満 ⇒ 空(右 ⇒ 左) に 2 個ずつ流れるように 2 回点滅表示する	● バッテリーが劣化し、容量が新品時の約 50 パーセント以下になっています。 ⇒ 新しいバッテリーに交換してください(故障ではありませんので使用できますが、残量ボタンを押すたびに表示が現れます)。	—
バッテリーや充電器が熱くなる	● 充電中、充電器は多少熱くなります。 ⇒ 異常ではありません。	—
	● 手で触れられないほど熱い場合は、異常です。 ⇒ 直ちに使用を中止し、販売店に修理をご依頼ください。	—
充電が完了したのに残量表示ランプが 5 個全部点灯しない	● 充電途中で電源プラグを抜きましたか？ ⇒ 再度充電してください。	44
	● 充電器の端子が汚れていませんか？ ⇒ 乾いた布などで清掃してください。	45
充電器のプラグをコンセントに差し込むと火花が散る	● 長期使用されたバッテリーですか？ ⇒ バッテリーの寿命です。販売店にご相談ください。	—
	● 充電器は正常なものでも火花が発生する場合があります。 ⇒ 電気は直流・交流に関わらず回路が成立する直前(金属が触れる直前) から流れ始めるため、電圧・電流の違いにより必ず大小の火花は出ております。スイッチ付電源タップをご使用の場合、OFF にして接続し、ON にすると火花は発生いたしません。ただし、コンセント端子以外から火花が発生している場合は製品の異常が考えられます。販売店にご相談ください。	45

必要なとき

必要なとき

故障かな?(つづき)

症状	対処方法	ページ
ペダルに振動を感じる	●ペダルに足を乗せた状態での停車時に振動を感じる場合がありますが、モーター固有の特性です。故障ではありません。	—
明るくなくてもバッテリーライトが自動で消灯しない	●手元スイッチの保護フィルムをはがしましたか? ⇨照度センサーの感度が悪くなる場合がありますので、手元スイッチの保護フィルムをはがしてください。	—
サークル錠が開錠できない/ アラーム音が鳴る	●冬期に雨や雪が直接かかる場所に駐輪していませんか? ⇨サークル錠シリンダー内に入った水分が凍結し、一時的に開錠できなくなることがあります。とけると開錠できます。雨や雪がかかりにくい場所に駐輪してください。	—
	ラクイックシステムでの開錠ができない場合は複数の原因が考えられます。	30
	●電子キーが作動可能状態になっていますか? ⇨通信エラーが発生していますので電子キーを作動可能になる状態にしてください。 ・電子キーを携帯していますか? ・電子キーの電源を切っていませんか? ・電子キーの電池が消耗していませんか? ・近くにテレビ塔や発電所、ラジオ局、空港など強い電波を発生する設備がありませんか? ・電子キーと一緒にノートパソコン、ラジオ、携帯電話などの無線通信機器を携帯していませんか? ・電子キーが金属製のものに接したり、覆われたりしていませんか?	
	●バッテリー残量が0%になっていませんか? ⇨アシスト停止状態なので、ラクイックシステムでの開錠はできません。バッテリーを充電してください。	44
	●サークル錠のカンヌキがスポークと接触していませんか? ⇨作動エラーが発生していますので、車両を動かしてカンヌキがスポークと接触しないようにしてください。	55
●サークル錠からのコードが断線していませんか? ⇨販売店にご相談ください	—	

手元スイッチに次の表示が出たときは、内容を確認して対処してください。

表示	対処方法	ページ
	●ペダルを踏みながら、電源ボタンを押しませんでしたか? ⇨ペダルを踏まないで、電源ボタンを押し、電源を入れてください。	57
	●手元スイッチと駆動ユニットの間の通信異常です。 ⇨販売店に修理をご依頼ください。	—
	●駆動ユニットの異常です。 ⇨販売店に修理をご依頼ください。	—
	●駆動ユニットが過負荷のため、保護モードに入っています。 ⇨変速を「1」にし、軽負荷で走行してください。しばらくすると正常に戻ります。 ※(炎天下での乗車など) 保護モードに入るとアシスト力が制限されます。そのまま走行していただいても問題ありません。表示が戻らない場合は販売店にご相談ください。	—
	●スピードセンサーが正しく信号を検出できていません。 ⇨電源を入れ直してください。直らない場合は販売店にご相談ください。 ※スタンドを立てた状態(両立スタンド装着車の場合)でペダルをこぐと、『S センサエラー /E2』が表示される場合があります。電源を入れ直すか、実際に走行すると元に戻ります。	—
	●駆動ユニットまたはラクイックシステムの異常です。 ⇨販売店にご相談ください。	—

お知らせ

- S センサエラー、M1・M2・B1・B2 オーバーヒート、C カギエラーの複数エラーが発生した場合、それぞれ「S、M1、M2、B1、B2、C」と省略して表示する場合があります。

バッテリーについて

■バッテリーの種類

- この自転車には、メモリー効果の心配が無く、軽量で安全性に優れたリチウムイオンバッテリーを搭載しています。

お知らせ

- バッテリーは標準品もしくは互換性のある当社製バッテリーを使用してください。
(互換性のあるバッテリーについては、販売店にご相談ください)

■バッテリーの容量表示

- バッテリー本体のPSEマーク部に表示している容量表示数値(16 Ah)は電気用品安全法(PSE)においてJIS C8711で規定された試験での測定容量値を定格容量値として表示しています。
- バッテリーのPSEマーク部以外の部分、取扱説明書、カタログの容量表示数値は実走を想定した社内試験条件放電での平均値(16 Ah)を容量値として表示しています。

■バッテリーの交換・廃棄

- お買い求めの販売店にご相談ください。



大部分の素材がリサイクル可能です。貴重な資源を守るために、使用済みの充電式リチウムイオンバッテリーは、廃棄しないで販売店にお持込いただくリサイクル協力店にご相談ください。弊社は小形充電式バッテリーの回収・リサイクルを実施する「一般社団法人 JBR C」に参画し、リサイクル活動を推進しています。リサイクル協力店をお探しの場合は下記ホームページよりご検索ください(<http://www.jbr c.com>)。

■交換時期の目安

- バッテリーは消耗品です。使いかたによっては3年程度で容量が半分以下になる場合があります。1回の満充電で走行できる距離が著しく短くなったり、走行できなくなったときはバッテリーの寿命ですので交換が必要となります。

お知らせ

- 700～900回の充放電で走行できる距離が購入時の約半分になります。
- 冬期約5℃以下や寒い環境下では、1満充電あたりの走行距離が短くなります。この現象はバッテリーの特性で、気温が高くなると走行距離は元に戻ります。
- バッテリー交換時期の目安と、製品の保証期間とは関係ありません。

■バッテリーの長期保管

- 電動アシスト自転車からバッテリーを取り外し、残量表示ランプ2～3個点灯の状態でご保管してください。
- 周囲気温が涼しい場所(15℃～25℃)でご保管してください。
- バッテリーの劣化を抑えるため、半年に1回は充電器に搭載し、残量が2～3個点灯になるまで充電してください。
- バッテリーの残量表示ボタンを押した場合、LEDランプが点灯しないときは、保護回路が働いています。バッテリーを充電器にセットし、充電状態にすると解除されます。
- 長期保管後再使用する場合、あらかじめバッテリー残量を確認し、不足しているときは、必ず充電してください。

お知らせ

- バッテリーが劣化する条件(以下のような条件では劣化が早まります)
 - ・放置期間が長く、使用頻度が低いとき
 - ・バッテリー残量が少ない状態で長期間放置したとき
 - ・高温になる場所で充電を繰り返したり、保管したりしたとき
- 劣化したバッテリーは必要以上の充電を行わないように、充電量(バッテリー容量)を制限し、お知らせする機能を搭載しています(☞P.71ページ)。

■特別保証期間および保証対象

1. 電動アシスト自転車用リチウムイオンバッテリーの特別保証期間

お買い上げ日から2年間

保証対象：電動アシスト自転車用バッテリーの材料、製造の不具合

保証条件：お買い上げ日から2年以内かつ満充電回数700回以下で、初期容量の50パーセント以下に劣化した場合

2. 保証期間内でも次の場合には原則として保証対象外とさせていただきます。

(イ) 保証対象外となる症状

(1) バッテリーの特性による使用環境、天候、積載条件などに起因する1満充電あたりの走行距離低下(一時的なものを含む)

- ・外気温が低い冬期に、1満充電での走行可能距離が夏期使用時より少なくなる現象
- ・上り坂が多い、発進頻度が高い、積載量を含む総重量が重いことによる1満充電での走行距離が短くなる現象など

(2) バッテリーの温度特性またはシステム保護のための一時的なアシスト力低下

- ・外気温が10℃以下の冬期使用時に、一時的にアシスト力が低下する現象
- ・外気温が高い夏期に、長い坂道を登ったり、重い荷物を積載して走行したりした場合、システムの保護のためにアシスト力が低下する現象など

(3) バッテリーの温度特性またはシステム保護のための充電の一時的な中断・待機の現象(回生充電も含む)

- ・気温0℃以下の低温、夏の直射日光が当たる場所や走行直後の高温時に充電した場合、充電の中断または待機になる現象など

※ 上記(1)～(3)のバッテリー特性について、詳しくは本書の「走行距離が短くなる環境 / 使いかた」、「バッテリーについて」をご確認ください。

(ロ) 誤った使用および不当な修理やバッテリーの分解、バッテリー内部部品の交換、バッテリーパック内部セルの直はんだなどの改造・加工をしたバッテリーを弊社電動アシスト自転車に使用されたことが原因で発生する故障および損傷

(ハ) 落下や水の浸入などの取り扱いの誤りによる故障および損傷

(ニ) 業務用(荷物運搬・新聞配達など)、営業用(レンタサイクルなど)、不特定多数で使用された場合の故障および損傷

(ホ) 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変および公害、塩害、ガス害など、異常電圧、指定外の使用電源(電圧、周波数)などによる故障および損傷

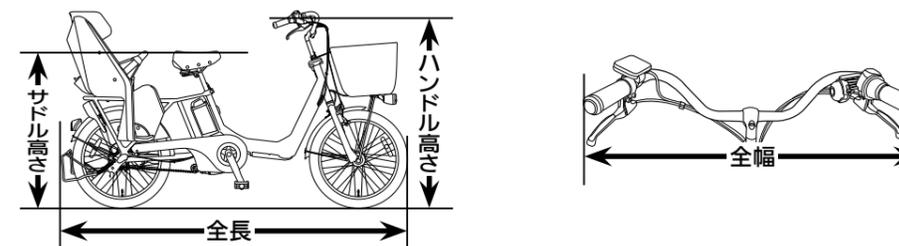
(ヘ) 保証書のご提示が無い場合

(ト) 保証書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入の無い場合、あるいは字句を書き替えられた場合

仕様

品名		ギョット・アニーズ・KD
品番		BE-ELMK03
寸法	全長	1,785 mm
	全幅	580 mm
	ハンドル高さ	995 mm ~ 1,040 mm
	サドル高さ	735 mm ~ 860 mm
	タイヤ	20 × 2.125 HE
	軸間距離	1,235 mm
総車両質量(バッテリーを含む)		34.3 kg
フレーム		U形
ハンドルバー		アップ
バスケット		標準装備
リフレクター		バスケット下・後どろよけ・前後車輪・ペダルに取り付け
スタンド		両立スタンド
リヤキャリア		標準装備(クラス 27)
補助速度範囲 変速 ^③ の位置		24 km/h 未満
充電 1 回の走行距離(標準パターン)		50 km [*] (アシストモード:「パワー」使用時)
モーター形式 定格出力		直流ブラシレスモーター 250 W
補助力制御方式		踏力比例制御 - 磁歪式
バッテリー	品番	NKY580B02(ブラック)
	種類	リチウムイオンバッテリー
	容量	25.2 V - 16 Ah ^{**} (28 cells)
	質量	約 3.1 kg
	ワット時定格量	404 Wh
充電器	品番	NKJ073Z
	形式	スタンド型
	電源	交流 100 V(50 Hz / 60 Hz)
	充電時間	約 5.0 時間
	質量	約 1.0 kg
	消費電力	260 VA
	待機消費電力	約 0.5 W
充電できるバッテリー		オプション(⑧ 78 ページ)をご覧ください
変速機方式		内装 3 段シフト
駆動方式		クランク軸上合力発生一体型
制装置	前輪	サイドプル形キャリパーブレーキ
	後輪	ローラーブレーキ
照明装置		バッテリー式前照灯
施錠方式		後輪サークル錠
乗車適応身長		142 cm 以上 (幼児 2 人同乗の場合は 155 cm 以上)

●寸法について



- 乗車適応身長は、1人で乗車時、両足のつま先が地面に着地できる身長を指します。
幼児 2 人同乗時、両足のかかとが地面に着地できる身長を指します(⑧ 12 ページ)。
 - 寸法や質量などの値は、部品のばらつきや仕様変更により、誤差が生じる場合があります。
 - 仕様変更などにより写真、イラストや内容が一部実車と異なる場合があります。
 - この車種は、乗員体重を 65 kg で基本設計しています。従って、著しくオーバーした体重の方が常用された場合は、各部の消耗度合、劣化度合が大きくなります。走行距離も、『標準パターン』に対して短くなります。
- ※走行条件：環境温度は 20 ± 5 °C、無風の状態で、バッテリーは新品、バッテリーライトは消灯状態、車載重量(乗員と荷物の合計)は 65 kg、路面は乾燥した平滑な路面、タイヤ空気圧は標準空気圧。
- ※※バッテリー容量の表示値については 74 ページをご覧ください。

オプション

別売部品

- 安全にご乗車いただくため、必ず当社の純正部品をご使用ください(当社の純正部品以外をご使用になり、不具合が生じた場合は、保証の対象外になります)。
- オプション部品の品番・価格などは都合により変更することがありますので、取り付けの際に、販売店にご相談・ご確認ください(掲載している品番は 2017 年 12 月 現在のものです)。

前チャイルドシート関連

■チャイルドシート(前用)

- NCD336A (ヘッドレストスライド式 / ブラック)
- NCD400 (ヘッドレストスライド式 / ブラウン)
- NCD401 (ヘッドレストスライド式 / ホワイトグレー)
- NCD391 (ヘッドレストスライド無 / ブラック)

- 年齢 1 歳(12 か月) 以上、4 歳(48 か月) 未満、体重 15 kg 以下で身長 100 cm 未満 SG 規格合格品

■着せ替えシートカバー(前用)

- ヘッドレストスライド式チャイルドシート用
- NCD478K (ストライプ / ブラック)
- NCD479K (ストライプ / グレー)
- NCD460K (フェイクレザー / ブラック)
- NCD461K (フェイクレザー / ブラウン)

■フロントバスケットカバー

- NAR164 (ブラック)

■幼児用自転車ヘルメット

- | | |
|--------------|------------------|
| ソフトシェルタイプ | ハードシェルタイプ |
| GH034M (ピンク) | NAY001 (マットブラック) |
| GH034V (ブルー) | NAY002 (マットレッド) |
| | NAY003 (マットネイビー) |
| | NAY004 (マットカーキ) |
| | NAY005 (マットイエロー) |
| | NAY006 (マットオレンジ) |

リヤバスケット関連

■リヤバスケット

- NCB2136 (樹脂製 / ブラック)
- NCB2137 (樹脂製 / ブラウン)

■リヤバスケットカバー

- NAR165 (ブラック)

■着せ替えシートクッション(後用)

- NCB286S (ブラック)
- NCB300S (ストライプ/ブラック)
- NCB301S (ストライプ/グレー)

■直付けサドル

- NSS2234S (ブラック)

サイクルカバー関連

■サイクルカバー

- NAR138 (全体カバー / ピンク)
- NAR146 (ハーフタイプ / ピンク)

■プレミアムサイクルカバー

- NSAR146 (全体カバー / シルバー)

■電子キー

- NAJ532S

バッテリー関連

■急速充電器: NKJ073Z

■端子カバー: NAH413

■バッテリー(交換用)

	20 Ah	16 Ah	12 Ah	8 Ah
ブラック	NKY582B02	NKY580B02	NKY578B02	NKY576B02
ホワイト	NKY583B02	NKY581B02	NKY579B02	NKY577B02

- 2015 年モデル以前のバッテリーとは互換性がありません。

- バッテリー互換性(容量アップダウン)については、当社ホームページでご確認いただけます。

<http://cycle.panasonic.com>

定期点検について



警告



必ず守る

■定期点検は、必ず実施する

(異常や故障の発見がおくれ事故発生によるけがのおそれ)

■部品の交換は、次の基準で実施する

- ブレーキワイヤ・変速ワイヤは、外観上異常が無くても 2 年に 1 回は、交換する
- タイヤは、接地面(トレッド)の溝がなくなるまえに交換する
- ブレーキブロックは、溝の残りが、1 mm になるまえに交換する
- ブレーキブロックは、リムにあった純正ブレーキブロックに交換する(ブレーキが利かなくなり、スリップのため転倒によるけがのおそれ)
⇒タイヤは仕様(76 ページ)のタイヤ寸法にあったものと交換してください。
⇒交換は販売店に依頼してください。



禁止

■リム(アルミリム)に著しい摩耗のあるときは乗らない

(リムが破損し、転倒によるけがのおそれ)

⇒リム交換マークが見えなくなったら新しいリムと交換してください。

⇒交換は販売店に依頼してください。

点検と整備は、自転車の大切な健康診断です。

いつまでも安全にお乗りいただくために、ご使用後、初めての初回(2 か月以内)点検と、6 か月ごとの定期点検の実施をお願いします(裏表紙の点検・整備チェックリストにて実施をお願いします)。

※定期点検・整備の料金は、お買い上げの販売店までお問い合わせください。

●初回(2 か月以内)の点検と整備

お買い上げ 2 か月頃らいのご使用で、各部にねじの緩みが出ることがあります。

必ず、お買い求めの販売店または修理代行店で、自転車安全整備士、自転車技士(自転車組立整備士)、もしくは同等の技術を有する者により点検・整備をお受けください。

●2 回目以降(6 か月ごと)の点検と整備

安全にご愛用いただくため、販売店に依頼し必ず継続してお受けください。

リチウムイオンバッテリー

愛情点検

●長年ご使用のリチウムイオンバッテリーの点検を!

	こんな症状はありませんか	●充電中、異常な音がある ●リチウムイオンバッテリーが異常に熱い ●こげくさいにおいがする	▶ ご使用中 止	このような症状のときは事故防止のため、自転車・充電器から外して、必ず販売店に点検をご相談ください。

自転車

愛情点検

●定期点検をし、安全走行をしましょう!

	こんな症状はありませんか	●異常な音がある ●がたつきや緩み ●車輪の振れ ●ブレーキの利きが悪い	▶ ご使用中 止	事故防止のため、必ず販売店に点検、整備を依頼してください。

この自転車は一般社団法人自転車協会が定めた自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車です。

自転車安全基準

一般社団法人自転車協会が消費者の安全第一と環境負荷の低減を目的として定めた基準です。JIS(日本工業規格)をベースに、EN(ヨーロッパ規格)など海外の規格やヨーロッパの環境負荷物質に関する規制(RoHS 指令)に基づいています。

BAA マーク



BAA マークが貼付された自転車は、安全で長持ちする自転車を目標に、一般社団法人自転車協会が定めた自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車です。

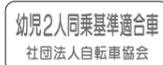
万が一製造上の欠陥で事故が発生した場合は、製造・輸入業者の責任で補償いたします。事故が発生した場合は、販売店にご連絡ください。

※一般社団法人自転車協会が直接利用者の皆様への補償をいたすものではありません。

「BAA マーク」は、自転車のバッテリーロックキー付近に貼り付けられています。

※ BAA= 自転車協会認証 -BICYCLE ASSOCIATION (JAPAN) APPROVED

「幼児 2 人同乗基準適合マーク」は、幼児 2 人同乗用自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車に、貼ることができるマークです。弊社指定以外のチャイルドシートを装着すると、幼児 2 人同乗基準に適合しなくなります。



点検整備済 TS マーク(保険付き)のご紹介



- 工場出荷時に貼り付けている TS マーク (P.35 ページ) には、保険は付帯されていません。
- 傷害保険と賠償責任保険が付帯された保険付き TS マーク(左図) が別があり、お客様のご希望により貼り付けることができます。
- 保険付き TS マークは、自転車安全整備店(TS マーク取扱店) で点検整備を行い、基準に適合した自転車であることを確認した上で貼ることができます。
- 費用や保険内容など詳細は、お買い求めの販売店もしくは自転車安全整備店(TS マーク取扱店) にご相談ください。

お願い

- 点検 年 月 日が記入されていない場合は、必ず、お買い求めの販売店に記入してもらってください。記入されていない場合は、補償されない場合があります。

電動アシスト自転車をお買い求めいただいたお客様で、ご購入日より 3 年以内に盗難にあわれた場合、盗難補償制度が適用されます。盗難補償制度とは、盗難車本体(充電器を除く) 希望小売価格(税抜) の 30 パーセントとその組立手数料 4,000 円(税抜) で、盗難車と同タイプの新車をお買い求めいただくことができる制度です。制度の詳細は下記のとおりです。

ご購入時、CLUB Panasonic にてご愛用者登録をいただくか、ご愛用者登録はがきに必要事項をご記入の上、パナソニック サイクルテック愛用者登録係にご返送いただいたお客様に限り、次の内容により盗難補償が受けられます。

(1) 盗難補償の期間と範囲

お買い求めの日から 3 年間の自転車(別売部品などを含む装着部品の盗難は除く) かつ、盗難日より 90 日以内に申し込みいただいた場合に限りです。

(2) 盗難補償の内容

- お客様のご負担 ①充電器を除く本体希望小売価格(税抜) の 30 パーセント
②組立手数料 4,000 円(税抜) 2017 年 12 月現在
※本体希望小売価格と手数料には消費税は含まれておりません

(3) 盗難補償の申し込み要領

- 提出書類など ①盗難にあった地区の警察署から交付を受けた証明になるもの(警察受理ナンバーまたは盗難届出証明書など)
②盗難車の保証書
③盗難車のキー(3 本) と電子キー(1 個)
④盗難補償申込書(販売店が用意いたします)
- 申し込み先 お買い求めの販売店へ現金を添えて、お申し込みください。追って、販売店から新車をお渡しいたします。

(4) 盗難車の所有権

盗難車が発見された場合は、その所有権は当社に帰属することを同意の上お申し込みください。

(5) 盗難補償ができない場合

- ①施錠せず盗難にあった場合
- ②(3)の書類およびキーがそろわない場合
- ③防犯登録がされてない場合
- ④補償期間が過ぎている場合
- ⑤景品などの贈呈品の場合
- ⑥盗難補償車が再度、盗難にあった場合
- ⑦愛用者登録をされていない場合
- ⑧盗難車が見つかり、返ってきた場合

ご注意

- 生産などの都合で、同タイプの自転車をお届けできない場合がありますことをご了承願います。

使いかた・お手入れ・修理などは **まず、お買い上げの販売店へ** ご相談ください。

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名	品番
電話 () -	車体番号
お買い上げ日 年 月 日	キー番号
	防犯登録番号

修理を依頼されるときは

「故障かな?」(70～73ページ)でご確認のあと、直らないときは、お買い上げ日と右の内容をご連絡ください。

- 製品名 電動アシスト自転車
- 故障の状況 できるだけ具体的に

●保証期間中は、

- ※保証期間:お買い上げ日から本体1年間、ただし、バッテリーは2年間、駆動ユニット・フレーム・フロントフォークは3年間です(詳しい内容については、保証書をご確認ください)。
- ※保証対象かどうか(無償修理か有償修理か)は、お買い上げの販売店で自転車と保証書の内容を確認した上で、判断させていただきます。
- ※インターネットなど通信販売、懸賞、贈答品など販売形態に関わらず、保証書に記載の販売店にご相談ください。修理や補修部品の直接販売は弊社では行っていません。
- ※定期点検・整備の料金は、お買い上げの販売店までお問い合わせください。

●保証期間終了後は、有償修理となります。

- ※お買い上げの販売店にご相談ください。
- ※補修用性能部品の保有期間 **8年**
当社は、この電動アシスト自転車の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後、8年保有しています。

■ 転居や贈答品などでお困りの場合も、**まず、お買い上げの販売店へ** ご相談ください。

それでも、お困りの場合は次の窓口にご相談ください。
ご使用の回線(ひかり電話など)によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

パナソニック 総合お客様サポートサイト <http://www.panasonic.com/jp/support/>

商品に関する、 お客様ご相談窓口	電話 0120-781-603 (通話無料) ※受付時間 9:00～18:30 (年中無休) ※携帯電話・PHSからもご利用になれます。	■左記電話番号がご利用いただけない場合 072-977-1603 (有料ダイヤル)
---------------------	---	---

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック サイクルテック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくための発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務などを委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。